

第 2 回 松江市中心市街地対策協議会 議 事 録

日 時：平成 18 年 10 月 12 日（木） 9：30～12：00

場 所：松江市役所 本館西棟 3 階 第 1 常任委員会室

（あいさつ）

事務局（松本課長）

おはようございます。ただ今から第 2 回の松江市中心市街地対策協議会を開催したいと思えます。次第のほうに書いておりますけど、最初に森部長のあいさつということにしておりましたが、急用ができましたので後ほど参りますので、その折にごあいさつをしたいと思います。よろしく願いいたします。

それでは早速ですが、議事のほうに入っていたきたいと思えます。最初に入る前に作野会長さんから一言ごあいさつをいただきまして、議事に入らせていただきたいと思えますので、よろしく願いいたします。

作野会長

皆さまおはようございます。さわやかな秋の季節になりましたが、きょうは皆さまお忙しいところ大勢の方にお集まりいただきましてありがとうございます。前回の第 1 回目の中心市街地対策協議会ですが、いろいろと法制度の問題それから松江市の現状等の問題です、議論することそれから勉強することが盛りだくさんで私だけかもしれませんが、ちょっと頭が飽和状態になっております。

本日より実質的な議論に入るとということで、本日はある程度時間をとりまして、皆さま方の意見をたっぷりとお聞かせいただくというふうに考えております。

ひとつ情報提供なんですけど、私どもの話なんですけども、明日より本学の教養教育科目の中の総合科目というのに「松江のまちづくり」というのがございまして、本年度初めて開講させていただきます。これにつきましては島根大学と松江市さんが包括的な連携協定を結び、それに基づく具体的な行動の 1 つとして、そのような授業を開設するに至りまし

た。

これは松江市さんも一定の予算とマンパワーを割いて御協力をいただいて、講義のほうでも松江市長それから森部長等に御講演いただくというようなことを考えております。

そのまちづくりと言いましても、非常に広いんですけども、特に中心市街地の問題をですね、重点的に検討していこうということで、早速来週になるんですけど来週の土曜、日曜は150人ぐらい学生が受講する予定なんですけど、いくつかの班に分けて中心市街地を見て回ろうというふうに考えております。

今回この協議会では、なかなかそういう視察が今のところ設定できてはおりませんが、必要があれば皆さまと一緒に歩いて、見て回って意見交換をすることが有意義でないかなと考えてはおります。まだ具体的にはなっておりませんが、そういうことも踏まえてきょうもお昼まで非常に長い時間ですけども、活発な議論があることを期待したいと思います。

(議事)

それでは議事に従いまして、このきょうの会を進めていきたいと思いますが、本日の大まかな流れを申し上げたいと思います。議事で中心市街地活性化に関する意見交換ということで活性化が先に付いているんですけど、中心市街地の諸問題についてこのあと意見交換を行います。これでかなりの時間が過ぎると思いますが、あと事務的といったは問題なんですけど、ワーキンググループの設置のこと、それから他の関連計画の状況これは前回、委員さんのほうから御質問が出たことをごさいます。それからその他というようなことで考えております。今から2時間半近くがございますので、途中1回ぐらい休憩をして議事を行って参りたいと思いますので御協力をよろしくお願いいたします。

それです議事の第1ですけども、この中心市街地活性化に関する意見交換ですが、このようにさせていただきたいと思います。

今から順番に、これが最初で最後になると思いますけど、全員におひとことずつお話しをいただこうというふうに考えております。お話しいただきたい内容はですね、前回の議論でも若干出てきましたけども、そもそもなんですけど中心市街地が必要なのかどうか、あるいは中心市街地の活性化ということが、望まれることかどうかという「そもそも論」もあっても結構ですし、それでは中心市街地が現状何が問題なのか、あるいは理想とかあるべき姿はどういうものなのか、そういうことに向けての可能性はどんなものがあるのか、そういったような内容でですね、皆さまが日ごろお考えになっていることをお話しいただ

きたいと思います。

ただ 20 人の委員がいらっしゃいますので、一人 1 分喋ってきっちり時間を守っていただいても、20～30 分かかるといことです。大変恐縮なんです、1 回目の御発言は、一応目安として 1～2 分ということにさせていただきまして、別にチャイムとか用意しておりませんので、延びてもどうかは申し上げませんがおおよそ 1～2 分ぐらいでおまとめいただいてですね、必要があればまた一巡したあと自由に御発言いただきたいと思います。

そのように考えておりますが、よろしいでしょうか。最初の方はちょっと緊張されたりあとのほうになると、また同じ話が出たりしてなかなかやりにくいんですが、勝手ながら安喰さんのほうから時計回りで順番に御発言をいただきたいと思います。御発言が終わったあと両アドバイザーのほうからも御意見を賜りたいと考えております。

それでは早速ですがよろしく願いいたします。

安喰委員

山陰合同銀行の安喰と申します。中心市街地活性化に関する意見交換ということなんです、仕事柄いろんな地域なんです、案件の情報を私どもの部で持ち合わせているんですが、その中で中心市街地活性化に対するスピード感というものは、当松江市さんが 1 番早いのかなという感じでおります。

その中でこうやって今の現行中心市街地の事業ということで、区域が地図で表示されてはいるんですが、実はこの地域の近隣地区ですね、今回の基本計画に上がっているんですが、人口減少、少子高齢化社会の到来に対応した、多様な都市機能がコンパクトに集積した「歩いて暮らせる生活空間」を実現すること、並びに地域住民事業者等の社会的経済的なおかつ文化的活動が活発に行われることにより、より活力ある地域経済社会を確立することというこの 2 つが挙げられているんですが、実はまさにこういった活動を区域外で計画していらっしゃる地域がございます。ついてはそういったことについても地域のスピードと言いますか、民間ベースのスピードと言いますか、そういったことを合わせてですね、今回ゾーニングと言いますか、ここの計画の線引きの見直しもぜひ必要になるのかなというふうに考えております。

そういったことが、より松江市における新たな中心市街地活性化の事業に有益であるんじゃないかなというふうに考えております。

極めて未確定要素が多い部分も、まだまだあると思うんですが、ベクトルはですね、今回の基本計画に載っているものが十分組み込まれているものだという認識をしております。

すので、そういった点についてもぜひ検討していくべき項目じゃないのかなというふうに感じております

作野会長

どうもありがとうございました。一つ一つの御発言には議論はできないんですけども、1つだけすみません、この松江市の区域外でそういう計画があるということですか。

安喰委員

地域ですね、しんじ湖温泉地域なんですけど、今の現状の区域から外れている所を現状の市街地活性化の区域の中と同じ動きをしようじゃないかという計画が実際練られているところでございますので、そういったものについては、今の基本の区域を再変更するということは、極めて有益じゃないかなと感じたところでございます。

作野会長

ありがとうございます。区域については、皆さん御承知だと思いますが、これが現在の中心市街地の活性化基本計画の対象エリアでございますので、今後引き直すことも可能なんですよ、どうですかね、それについてもまたこの協議会で決定をさせていただきたいと思っております。続いて井ノ上さんお願いします。

井ノ上委員

おはようございます。井ノ上と申します。中心市街地は必要かということで、それはもうひとことで必要だと思います。今まで培われてきたいろんなストックがこの中心市街地にはございます。文化も1つですし、目に見えるもの見えないもの、それからあとは人ということ、あと施設それから道路網も、ありとあらゆるものがストックとして中心市街地にはあると思っております。

その中で人口の減少ですとか、郊外にいろんな施設等も移転していったわけですけども、やはりあるものを活かすということが、これからも本当に必要なことですのでぜひぜひあるものを掘り起こしていくという点でも中心市街地は必要だと思います。

そして今後「歩いて暮らせるまちづくり」ですとか「住み続けるまちづくり」ですとか、そのためにもやはり中心市街地というものを、どんどん活用して元気になっていかなくちやいけないなと思っております。

また、安喰さんのお話しにもかさなりますけども、この区域のちょうど隣接する商店街でも、一つ一つ自分たちのまちを見直して、もっと元気になろうじゃないかというような動きも広がっていると思っておりますので、区域の見直しともあわせて議論していきたいと思っ

ております。

作野会長

どうもありがとうございました。非常にコンパクトにまとめていただきまして恐縮です。それでは続いて勝谷さん。

勝谷委員

おはようございます。松江しんじ湖温泉の振興協議会の会長をしております勝谷でございます。安喰さんと井ノ上さんがお話しになりました、延長の中でのお話しになると思いますが、実は私どもの地域、御存知のように駅前そして殿町、松江しんじ湖温泉と、この中心市街地活性化の3地区に以前から指定されておったわけでございます。

したがってその時点から、地元の我々にとっては、どのようにすべきかということとをずっと検討をいたしておりました。ここにきて地区のランドデザイン的なものが、ほぼ煮詰まって参りました。

そこでこの中心市街地活性化のいろいろな目的等がございますけれども、安喰さんが先ほどおっしゃった、この線引きと言いますか、見直しのことでございますけれども、たまたま隣接地の松江しんじ湖温泉駅北側に一畑さんが、いろいろと土地所有をしておられる地区がありますけれども、そこはそこなりにいろいろ、この方向と同じ歩みをしておられましたので、私どもも一体になって相乗効果を出す必要があるということで、今また線引きを見直してですね、やろうとしておるところでございますけれども、この会でぜひそのへんの見直しを御承認いただいて、よりよい効果を出したいということでございますので、よろしく願います。

なお、具体的にこのへんでという必要があれば、言わせていただきたいと思いますが、そのへんはいかがでしょうかね。

作野会長

どうぞ、おっしゃってください。

勝谷委員

ちょっと私も地図を見ないとわかりませんが、これがしんじ湖温泉駅だと思います。今、私どものエリアは、こういうふうになっていますけれども、それをこの北側のこちらへんまで延ばしていただいて、ここに一体感を今いろいろ考えておるところでございますので、御検討をいただきたいと思います。

作野会長

ありがとうございます。現在ちょうど一畑電鉄のラインで切れておるといところで、その点について拡大の余地ありという、御発言だったと思います。

坂本委員（代理出席）

松江まちづくり会社の坂本でございます。きょうは古志の代わりに私、取締役の坂本が来させていただいております。中心市街地の活性化ということでございますが、私どもの会社が中心市街地の活性化ですね、特に橋北のほうで殿町を中心に景観整備を行ってまち歩き観光を促進していこうという目的のもとですね、ハードウェア整備とソフトウェアの開発ということを中心眼に作った会社でございます、その中で今第一弾目として蓬萊荘の改修工事に携わってその中で、近隣の南殿町商店会や京店商店会さん、それからあとNPOの松江ツーリズムさんと一緒に共同イベントをやっていこうというような活動をやっております。

その中で何とか持続的に民間主導で中心市街地の活性化ができていくような仕組みを何とか作っていききたいというのが私どもの会社の趣旨でございますので、皆さんの御協力を今後ともちょうだいして、頑張っていきたいと思っております。

作野会長

どうもありがとうございました。現在のお取り組みを御紹介いただきました。続いて高橋一清さんですね。

高橋一清委員

高橋一清です。市街地があのようにさびれていった時、元のような元気をどう取り戻すか。その場合、以前あったようなものをまた作り直すという考えにとらわれがちです。実際、地理的、歴史的な立地条件で、その場所にふさわしいものが育っていたはずですが、しかしそれを地域に分散されてこんにちのような状態になり、曲りなりにも都市機能を果たすまでになった。これはもう戻しようがないのです。そこを我々は認識しておいたほうがよいと思うんです。

だから、取り戻しによる元あったものの再現ではなくて全く違ったものを取り入れるほうが、展開はよいのではないかというのが、私の考えです。

たくさん人が集まる所にする、たくさん人が住むためのまちにするために取り組む場合、例えば住んだらよいことがある、出店したらよいことがあるという、目に見える実行効果と言いましょうか、そういうものがぶら下がる限り、人は動かないのではないか。例えば税制上の優遇措置がいただけるようなシステムをむこう10年間ぐらいはしてみると

か、逆にいつまでたってもシャッターを閉めきったままにする者には負荷をかけるとか、そうした目に見える方法を取らない限り、松江の人の気質は動かないのではと感じます。

私がかんにち取り組んでいることも、もちろんこれまでのいいものを守っておられる方への理解をした上で、今までこの松江になかった、また日本でもこれまでなかった、催しや文化的イベントを考えたりしております。

作野会長

どうもありがとうございました。個人的には非常に同感の部分が多かったんですが、今の税制上の優遇措置等のことについては、後で先生方とか松江市さんにもお聞きしてみたいと思いますので、また後でそういう時間をとりたいと思います。続いて高橋課長さん。

高橋与志男委員

県の商工労働部の経営支援課におります、経営支援課長をしております高橋と申します。よろしく願いいたします。職務的には私は所管でいえば、中心市街地活性化法の所管をさせていただいておりますし、大店立地法の認可もさせていただいております。それは実際は国がやっておりますので、下請的な形でやっておりますけど、一方で中心市街地の活性化における例えば、空き店舗対策とか中山間地対策もやっておりますけど、そういった商業の活性化に向けての助成事業とかですね、これは商工団体さんを通じたりあるいは、市を通じて助成事業を政策的にやっているというような形でやらせていただいております。関わりとしては、そういう形でやっております。

松江市のこのたびの中心市街地の対策協議会ですか、前回欠席させていただきましたので、流れとしては十分に承知しておりませんが、ただ私も松江に住んでおりまして、中心が空洞化していく流れというのは、子供の頃から見ていて非常に大きな流れだと思って見ております。

先ほどお隣の高橋プロデューサーがおっしゃっていましたが、確かに元に戻すというのは、ロケーションの関係とか人の流れからみても非常に難しいなと思っておりますけど、去年おととの資料なんかを見させていただいても、地域地域でこういったテーマがあるかというのは、ある一定の方向性を持ちながらやっていけば、ある程度の方向性を出す中ではやっていけるかなと、ただその中で一番大事なものは、地元の人たちがどう考えるかということ、生活に密着した中でやらねばなりませんので、そこに住んでいる方々が店主の方と生活者の方がいらっしやると思いますが、中心市街地としての商店街をやっていくなら商店の方々に頑張ってもらえないかなと、我々は支援をしていく立場でありま

すから、そういう中での、ある一定の方向性でみずからでやってもらうしかないかなというのがあります。

どうあるべきかというのは、皆さん方の意見も聞きながら一緒に検討していきたいなと思っておりますので、よろしく願いいたします。

作野会長

どうもありがとうございました。今おっしゃったポイントの地元というか、当事者の問題というのは、恐らくこの協議会で非常に大きいポイントになるかと思っておりますので、きょう以降、その点も議論させていただきたいと思っております。それでは中村さん1～2分ということをお願いします。

中村委員

私は当事者ということでございます。前回もお話しがありましたとおりでございます、実は市民病院が抜けましてから、こんなに厳しくなるかということについては、想像もしておりませんでした。

せっかくお年寄りにやさしいまちづくりが、ある意味で軌道に乗っているんですけど、それを差し引いても商店街自体の経営が大変厳しくなっておりまして、集まりも悪くなっているというのが実態でございます。

今までのことは仕方がないとして、先ほども高橋さんがおっしゃっていた元に戻すことは無理なことだということで、それはそれとして今後のことでは相当に総合的に中心市街地の部分を見ていかないと、それも総合的にというのは、それぞれがよい形で努力をしている方向には行っていると思っておりますので、それにお互いが協力し合えるような、応援し合えるような、そんな体制で中心市街地を活性化していかないと、このまちづくりも、なかなか大変だなというふうに感じております。

作野会長

どうもありがとうございました。また後で時間があれば、お話しいただければと思います。続いて三笹さんですか、よろしく願いいたします。

三笹委員

私のほうは、旅客自動車協会と言いまして、バスとタクシーの事業者の団体でございますが、バスに限って申し上げますとですね、松江市の場合は大別すれば、市内を市営バスさん郊外から市内へ乗り入れるのを一畑さんという大別ができると思うんですが、この両事業者ともですね、昭和43年を境に年々利用者が減っているのが実情でございます。

これは、いろいろ条件はありますけども、大きいのはマイカーの普及と、これに尽きるんじゃないかと思うんです。そういった観点から見た時に、今検討なさる中心市街地の活性化策がいろんな政策をとられた結果、人の流れが起きる際に何で人が移動するかという問題を考えた時に、公共輸送機関で移動させるんだという計画ならば、バス事業も大いに協力するというつもりなんですけど、この政策の中でマイカーというものが条件に入っておれば、それじゃあバスが先に走って流れをつくれと言われても、なかなか難しい問題だろうと、どちらが先にするかというようなことじゃ解決にならないんじゃないかと。

ですから、そういう中心市街地の活性化策をやる時に人の流れを何で起こすかという所を協議願わないと、我々バス業界としても大変難しい問題だろうという具合に率直に感じております。

作野会長

ありがとうございます。実はその点も非常に重要な点だと考えておりました、特にこの地方都市の場合の車、マイカーの問題、これはぜひポイントにさせていただきたいと思えます。続いて山崎課長さんよろしく願いいたします。

山崎委員

都市計画課でございますけれども、前回都合によりまして欠席させていただきました。きょう初めて出席させていただきましたが、いきなり意見をということで多少戸惑っております。なぜ今中心市街地かということでございますけれども、今回まちづくり3法の改正があったわけですが、前回の委員会で説明があったと思っておりますけれども、幸い島根県ではそれほど郊外部への大きな小売店舗の立地とかということが問題になっていないかなという気がしています。

他県では大変な状況になっておりまして、今からでもですね、今のうちに中心市街地について島根県とか松江市についても考えていくべきだろうというふうに思います。

これまでの中心市街地の活性化は、商業の活性化ということが重点的に取り組まれたと思っておりますけれども、今回ですね、高齢化社会に対応したまちなか居住とかですね、先ほど言われましたようなまちなかの都市機能の集積、これを活かした都市再生といいますが、社会が変わっているわけですから、それに応じた都市づくりというものをやっていくべき時期かなと思っております。

その進め方でございますけれども、今回、中心市街地活性化法の改正があったわけですが、活性化協議会というものが法制化されたということでございます。

これはこれまではハード中心の事業が中心だと思いますけども、よりこれから金のない時代になりますので、活性化協議会を通じてですね、ソフト事業、特に民間活力を利用したこういったものが、非常に大きなポイントになるかなというふうに思っております。

作野会長

ありがとうございました。それでは続きまして、三枝さんはいらっしゃるんですか。では福間さんですか、よろしく願いいたします。

福間委員

福間恭子です。私は市民公募で、皆さんのように専門的なことが全然わからないので、一市民といえますか、住民の感覚として今感じていることを言いますと、以前より私は京店とかあっちのほうを、よく学生時代は、小学校とか中学校とか、買い物には行ったりはしていたんですけども、今は私も含めて友人等が、そこらへんを利用しているかという、はっきりいって魅力がないと、行きたい所ではないですね。

なぜかという、行ってみたいお店がまずないと、たまに飲食店とかそういう所は利用するんですけども、そういう所でまず魅力がないので、足が遠のいているのがまずあります。あとは、行き方がマイカーでどうしても行ってしまうので、とめる場所が非常に無くて困ると、行っても、松江の人は大体そうだと思うんですが、無料駐車場を利用したいんですが、とめる場所がないのでどうしても足が遠のいてしまう。

駐車場はどうかという、まず空き地があれば最近マンションが建ちますね。マンションが建つと、閑散とした商店街の中に、商店街の近くといえますか、急に大きいものがボンと建って、非常にちぐはぐな感じがします。地元の人があまり集まらない所になぜか大きいものが建って、旧一畑のようなものが閑散として残っていると非常にちぐはぐな感じがして、そういったマンションとかも最近屋上緑化とか壁面緑化とかヒートアイランドが問題になっているのに、旧来の建て方をしている。景観としてもあまり良くないと私は感じています。

観光客の誘致ということも非常に大事だと思うんですが、まず地元の人が、特にこの周へんですね、非常に誇りを持っているはずなんですが、魅力を感じられない。そこらへんをまず変えていかないといけないなと思っています。

そういったことで、旧一畑の跡地の利用も含めてですが、これから一生懸命考えていかないと、ますますこのへんは閑散としてしまうなと思います。

新しい素材の導入とかですね、新しい素材を作る事業をしている企業とかの誘致とか、

そういうことも新しいことも含めて、従来の商店街の皆さんの協力も得て、総合的にこれから未来志向でこの松江のまちづくりを考えていかないといけないなと思っています。

作野会長

どうもありがとうございました。今人のお話しが出てきまして、これ高橋課長さんのほうもおっしゃっていますが、その点をぜひ議論していきたいと思います。続いて仲田室長さんよろしく願いいたします。

仲田委員

山陰中央新報社の仲田です。今、福間さんのお話しにもあったんですけど、今年の夏の花火の時ですね、どこからこれだけ人が湧いてくるかというふうな老若男女がいて、それを考えると駐車場が有る無しに関わらず、魅力ある所がスポットがあれば人が出てくるんだろうというふうには感じております。

まちづくりの方向でございますけれど、今まちづくり3法の中身を読んで見ても、他地域の様子を見ても、何か計画の中にすべてのことを網羅しようとしている点が非常に奇異に感じておりまして、それをすると非常に中途半端な形にしかならないと思います。

松江の場合でも、何か1つか2つかにポイントを絞りまして、そこに集中投下していけば、さらにそれによって松江というまちが魅力ある場所になってくれば、別の機能も後からついてくるというふうを考えております。

県外から見ると、非常に松江というのは、魅力のある地域というか場所だそうですね。それを我々認識して、その点でもすでに松江市の場合はアドバンテージを持っているわけですので、ここに1つの強力な物を付加していけば、よい地域ができ上がるんじゃないかなというふうには感じております。

作野会長

どうもありがとうございます。今朝、車のナンバーの話で川越市は、川越のナンバーができて観光客を1,000万人を目差すと言って、今500万人なんだそうですね。

川越というのはものすごく関東では有名なんですけど、ほぼ松江市と同じぐらい観光客が、松江ってすごいなと逆に今朝感じた次第ですので、今おっしゃったような方向も検討していきたいと思います。きょう高橋先生いらっしゃらないんですか、では鈴木所長さんお願いいたします。

鈴木委員

日本政策投資銀行の鈴木です。私は転勤族なんで、どちらかという外から見た松江の

話をさせていただくのかと思います。いろいろ資料を見させていただいて、認定マニュアルも見てみましたが、この最初のページに、基本計画作成に先立って市町村は過去の取り組み、例えば旧法に基づく計画の実施状況に対する評価を行い、その成果や反省を踏まえて基本計画を作成することが求められます、と書いてあります。今皆さんがおっしゃったことも全くこのとおりのことなんです、やはり松江市さん自体が過去の施策について、それをやった結果どうだったのかというのは、きちりしなくてはいけないと思います。

17年度の報告書というのをいただいたんですけども、これは人口が減ったとかどうかという話がありますが、施策については大体「取り組んでいる」、「活かしていきたい」、「実現するはず」というような表現にとどまっています。それでは評価にならないので実際に何をやったらどうなったのか、どの政策が効果があって、効果が無かったのかという評価をきちっとやる必要があると思います。

例えば天神町の電線をアーケードの軒下に伝わせたものなどは、ものすごく効果があったんだと思いますので、そういうのは評価すればいいと思います。他方、先ほど私転勤族と言いましたが、南殿町の再開発ビルができて、実はあそこの壊す前の喫茶店などに私はよく行っていたんで、ビル全部がまだでき上がっていないんで、どうなるかわからないですけども、個人的に言えばですね、ああいう店が無くなったゆえに使いにくくなったと感じています。皆さん同じようなこともおっしゃっていますけれども、それが施策とのからみで実際どういう結果をもたらしているのか、資料がまずないのがちょっと不満です。

作野会長

この事業は私も不満でしたが、言えないまま進んで行ってしまったんで、またそのへんも反省したいと思います。では続いて門脇さんお願いします。

門脇委員

数少ない一般参加の市民の門脇と申します。生まれは当地松江でございます。育ちは全国区でございます定年後こちらに帰って参りましていろいろと対応いたしております。

先般来、島根県の各地をいろいろと歩いて参りました。山に入りますと山は荒れて荒れ放題と、所有権者ははっきりしているんだけど、何の手入もなされていないと、御承知のように島根県の場合は、8割が山と言われる具合の所です。畑のほうを見ますと畑も荒れ放題、これも放置されていると。

すなわち中山間地域に対してですね、かつては中山間地域とまちとの関連というものがあつたものではないかという点が1つございます。

一方まちの中に入りますと、人は少なくシャッター通りと、ただしさっき中央新報さんのお話がありましたように、イベントの日になりますと雲霞の如く湧く如く人が集まってくると、そこに私は中心市街地の活性化の糸口があるんじゃないかと受け止めております。

やはりこれは、複合的な組み合わせが大事ではないかと、観光がありイベントがありそれと住居の関係と、ただし残念ながら私も含めてそうですけど、Uターン組ですけれどね。学校を卒業しますと就職がないから県外へ出てしまうと、すなわち職と食べるほうの食となかなかつながってこないと。

御承知のとおり、先般国勢調査でもって松江市は人口20万人きつたと、4,000人ほど人が足りないという現実があります。

ある会議体でもって、1万人対象にアンケートが実施されました。一般市民の満足度はどうかという項目の中で、60項目対象で満足度の調査がなされたようです。残念ながら60番、最下位であると、ただし救いどころがありましたのは、これは将来に向かってですね、松江市にぜひとも必要だという市民ニーズが第4位にランクされているという点がひとつ注目される点ではないかと思っております。

今まで数多くの合併前後にまちづくり、中心市街地の活性化の関連の会議体が開かれてきたようでございます。なかなか市民のほうに内容が伝わってこないというのが1点ございます。なぜかといいますと、P D C Aの中でD C Aになりますと、具体的なものがないからできましたらもうちょっと1歩進んだ中ですね、6 H 2 Wぐらいの具体的なものを検討していく必要があるのではないかと。

すなわち、行政サイドで誰がどうチェックされて誰がどうフォローされたかと、何にも市民にはわからないと。

それともう1点観光につきましてです。実は私定年後ボランティアガイドをやって参りました。松江が2つの賞をとった時にお客様を案内いたしました。その時にお客様が言われました。松江は非常に観光資源的には、他から見ればうらやましい観光資源がたくさんありますと、出雲神話しかりですね。宍道湖というのは御承知のとおり、江戸時代から明治の時も観光ベスト10に入った観光地でございます。

ただしその活かしようが、ちょっと足りないんじゃないかと、喋りだしますとたくさん

ございますけど、一般市民の見た目線からのものがございます。後ほどまたお話しをしたいと思っております。

作野会長

ありがとうございます。先ほど鈴木さんもおっしゃったようなチェックというか、反省というか、そういうことについてもシステムに組み込むというものを検討していく必要があると感じた次第です。では続きまして小汀さんお願いいたします。

小汀委員

私は今この商工会議所の中心市街地活性化委員会という立場から、この会に出させていただいているわけですが、実は私は昭和 50 年に出雲から松江店出店に伴って出て参りました。昭和 54 年、4 年後に会議所の議員選挙というのがあって、当時の私どもの社長の勧めで議員にならせていただいて以来、会議所の活動に出ておるんですが、当時はいわゆる大型店、現在もうすでにその時に審議をされて出た大型店が解消されている部分もあったりして、時代の変遷を非常に感じるんですけども、当時から私は 27~28 歳だったと思うんですけど、その時に会議所の会合等でも申し上げたのは、その当時でもそうだったんですが、いわゆる中心市街地あるいは商店街といいながらそこに住む商店主であったり、従業員はもちろん他から勤務ということですが、商店主そのものがドーナツ化現象という言葉があるように、郊外に本宅を建てて出られて、結果的によくその後いわれるんですけども、夕方 5 時とか 6 時になると、もうシャッターが閉まってしまう。

今は朝から晩まで閉まっている所が非常に多くなったわけですが、当時はまだ商店はずっとあっても夕方 5 時 6 時。一般の市民が買い物に出ようかという時に、商店がすでに閉まっているという状態。私はこの部分に対して、そのへんが 1 番問題じゃないでしょうかということ、かねてから言って参りました。

それはなぜかという、まず便利な所に人が住まなくなって、商店主みずからが住まないということが私は 1 番問題でないかということをおっしゃると、最近では人が確かに住むようになっておるんですが、これはマンションという形で商店主じゃなくてですね、人口だけは増えているような感じなんだけれども、果たしてそれが商売にプラスになっているかどうかという部分の疑問を今までずっと感じて参りました。

要はこういうまちづくりという部分でいうと、もう江戸時代からあったように本当のまちづくりというのは、当時の藩政の部分で藩主がこういう方向でやるんだということで、施策を考えてやってきた。

現在でいえば、行政がそれなりの主導権を持ってですね、先ほど税制のこともありましたけども、そういう部分をちゃんと組しながら、便利な場所に人が住むということにならないと、活性化は最終的にはないのではないかなと、そういう意味で、こうやって行政のほう为主导して一般市民のあるいは学識経験者としての意見を聞いて、それを施策に反映していこうと思われるこの会の部分については、25、26年前にはあまり無かった部分が、こうやってあるというのは非常に結構なことだと思いますし、この委員会の審議の結果が少しでも、まちづくりのために貢献するようになればいいかなと思っております。

作野会長

どうもありがとうございました。小汀さんにはまた後ほど個別に意見書を出されていらっしやいましたので、また時間をいただいて具体的に御紹介いただきたいと思います。では続いて泉会長よろしく願いいたします。

泉委員

実は私中心部で商売をやっております関係で、立場が商店街連合会の会長という立場で出かけさせていただいておるわけですけど、そもそも松江市の都市の生い立ちからいって城下町でございますと同時に、大橋川という大きな川で南北に分断されている上に、堀川で非常に細分化もされておって、かつて中心部の繁華街はどこかと、よその人が子供に聞かれたらスーパーマーケットに連れて行ったという、“笑い話”のような話がありますが、ことほどさように中心部が非常に希薄なまちなんですね。したがって、かつて城下町時代は、それぞれ機能別に、ちょうど私が商売しております京店は、京都のまちに似せて作ったという意味で京店という名前が残っているわけですけど、山陰地方の小売のメッカだったわけです。それと同時に白潟本町は、卸商業とかそういった外部に対する商売をやっておられる方が多かったです。

そんなことで、まちへいろいろなことを申し上げたいと思っておりますけど、さっき申しました松江市の地形的な問題からして、中心部のそれぞれの機能を、ある程度特化した形で持っていないと、いけないんじゃないかなという気がいたしております。

これは自然発生的なんですけど、京店は物販では非常に商売が成り立ちにくくなりつつある上に郊外店の問題もあるんですけど、私は“食”ぐらいしか、ここに人を集める方法は少ないんじゃないかという気がいたしてありましたところ、最近になりまして空き店舗に盛んに食の関係のお店が出だして、これは一過性かどうかわかりませんが、傾向としては、これはよい方向じゃないかなという気がいたしております。

ことほどさように、各地区的にその範囲がどうっていうわけで限定するわけにはいきませんが、それぞれの地域のゾーンごとに、ある程度特色を持ったもので進めていかないと、観光客も含めて松江の中心部の活性化は、非常に難しいんじゃないかなという気がします。

それと同時に、こういった会を通じてハード面とか行政サイドの面では、非常にいろいろなことが進められておりますが、ハードと同時にソフト、特にいわゆるコミュニティというんですか、人と人とのつながりをもう少し何とかならないかなと、先ほどらい出ていましたマンションで生活しておいでの方は、案外それぞれの部屋には閉じこもって、地区とのつながりが非常に希薄だという気がいたしております。

そういう意味で、都市部に今盛んにマンションが建ちつつあって、ある程度人口の移動っていいですか、住んでいる人が増えてはおるんですけど、必ずしもそれが町の中心部の活性化に直接つながる効果は少ないんでね、そのへんで、それぞれかつての隣組みたいなものを復活させるわけには参りませんが、地域的な連帯感を何かの方法で、これはソフト的な面ですけど、すすめていかざるを得んじゃないかなという気がいたしております。

そういう意味で、私は「^{さんじょ}三助」、^{じょ}助というのは助けるという意味ですが「公助」公の助け、支援といいますが、それと共同のお互いに助け合う「互助」ですね、それと自助努力の「自助」と、この「三助」が、まちづくりには非常に大切じゃないかなという気がいたしております。

作野会長

どうもありがとうございました。今のコミュニティ、どういう形がよいかは別としてコミュニティの問題ですね、必ずあると思います。では続いて熱田さんよろしく願いいたします。

熱田委員

商工会議所の熱田でございます。歴史は繰り返されると言いますが、昭和 50 年代、地元の方は良く御存知でしょうけども、松江の駅前にピノそして黒田町の郊外のほうにアピア共同店舗が相次いでできました。

その時の国の商業振興の施策の中で、力のある人は、共同店舗で集まってやるような指導がありました。それで共同店舗が悪いというわけではなくて、私が申し上げたいのは、その時に商店街で力を持っておった有力な商店主が主力を移してしまい、結果的に今御覧のような形でピノもアピアもみんなもう無くなっていますけども、そのあとにですね、その力を持った人がいなくなった商店街が問題は疲弊をしてしまったという流れが 1 回あっ

てですね、さらに平成 10 年、今度は中心市街地活性化法を中心にしたまちづくり 3 法が
できまして、御承知のとおり 7 年経って見たら、またしても同じようなことの繰り返しで、
大型店の郊外出店に伴って、また地元の商店街が大変な苦勞をされているということでご
ざいます。

そういった国の施策というものも踏まえながら、今度、国もそういったことに理解をし
て新しくまちづくり 3 法が改正されたという流れがあるわけです。

この松江市においても平成 10 年の時には、いち早く TMO なるまちづくりを進める機関
を設けまして、行政と一緒にあってそれなりに中心市街地の活性化ということでやってき
ました。

ただその時の考え方というのは、あくまでも商業振興、商店街振興という視点でやって
おりました。これを今度の新しい法律では、そうではなくて中心部を生活空間ということ
で、いろんな視点から考えていこうということで、もちろん商業振興とも図っていかなけ
ればいけないと思いますけども、多様な形で捉えていこうということで考えられたもので
ございます。

私もたまたま平成 11 年から、TMO の立ち上げから担当しておりまして、感じておりま
したのは、地元の商店街の方あるいは地元に住んでおられる方に対する一緒にやろうとい
うものが、これは商工会議所あるいは行政の責任ではないかと思っていますが、少し欠け
ておったのではないかなという反省もしております。

マスタープランも、TMO としてのプランを作っておったんですけども、基本的には少
し場当たりの施策、対応策であったのかなという反省もしております。

中でも天神町さんのように、全国に誇れるような活性化策をとっておられる所もありま
すけども、まだまだ打つ手はたくさんあるかと思っています。

昨日たまたまある講演会に出ておりましたら、よい言葉を聞きましたので御披露して、
また私自身もこういった考え方で、これからの中心市街地の活性化に向けて行かれればい
いなというふうに思っています。

おっしゃったのは、マグネット云々ということでございます。ある病院が大変人気があ
ってよい病院だということで、そのよい病院にはよい医者も集まり、よい看護師さんも集
まる。

そういう病院をマグネット病院ということで、お客さんがどんどん集まってくると、そ
れをヒントに例えばマグネット都市、マグネット地域というふうな、日本で言えばマグネ

ット国家というふうになると思いますけども、人を引きつける、高橋さんもおっしゃったように魅力あるものにしていくというふうなことにしていく、キーワードでマグネット云々というのがありますよという言葉聞いたものですから、そうだなと思いながら人が集まるような魅力あるこれからの中心市街地、個性あるものを作っていくことが必要だなというふうに感じました。

作野会長

ありがとうございました。今の、途中でも他の委員さんからも出ましたけど、地元を巻き込んでという言葉がありますが、本来はそうでなくて地元が動くべき所が、なかなか動きが鈍かったり、いろんな状況があると、そこにどうメスを入れるかあるいは入れないのか、このあたりの所も非常に重要なポイントになると思います。次、三枝さんよろしくお願いします。

三枝委員

よろしくお願いします。私は中心市街地活性化協議会の委員にならせていただいたのにもかかわらず、中心市街地と呼ばれる地域が、今のままでいけないのかという所から逆説的に考えたりもしたんですけども、商店主さんにとっても結構生活がかかっていたりとかしますので、現状が良くないことは当たり前のことかと思うんですが、一般市民として今の中心市街地があつた状態であるということが、よいのか悪いのかって考えると、あまり直接的には関わりがないので「別に」って多分思っている方がほとんどだと思うんですね。

ただ私もそうなんですけども、少し中心市街地の商店さんと関わったりですとか、まち全体に関わってくると、なんかこうやっぱりさびしいという思いが出てくるんですね。

ここがこういう状態になっているのがさびしい、もっと何とかしたいという、ひとりひとりの思いから始まるのかなと思うんですね。何かハード面だったりソフト面だったり、外の方から自分以外の方からアプローチをかけられても、なかなか動けなかったりするんですけども、自分で思い立ったことというのは、例えば祭りに参加してみたりとか、勝手にビジネスプランを作ってみたりとかという動きは、思いがあればできるのかなと思っています。

ここでは私は中心市街地が現状はさびしいと思いますので、個人個人が自分の友達とか、もっといえば県外の友達とかに「ここは、すごいんだよ」って自慢したくなるというか「ちょっと1回来てみなよ」っていう、自分が口コミ宣伝隊長になれるような何かうまい仕掛

けというようなものを作っていけたら、もっと人が集まったりとかは、するのかなと思うんですけどね。

私の友達の話ですが、1年ほど前に殿町に天然石のジュエリーショップをオープンした女性がいるんですけども、30代の中頃の女性なんですけど、この方は思いが強くて自分のお店を作っておられて、そのお店に私も行ってかなり仲良くなりまして、思いに共感するので、そこのお店を私はどこでも宣伝しているんですよ「ここすごいから、行ってみて」と言う、そこにある施設なり、お店なりの力、遠くからでもお客さんを呼ぶ、来たお客さんを宣伝隊長にするという、口コミの力を使えるというような、遠くからでも呼べるようなという心持でやっていく方というのは、そこに集めると全然違うまちになっていくのかなと感じます。

作野会長

ありがとうございました。そうですね、私も普段村の研究をやっているんですけど、いつも皆さんに驚かれるんですけど、兵庫の村の村おこしをやっているんですけど、そこはとっても素敵なので、年に4～5回行くという、そういうのと似ていますよね。

ぜひそういう感覚を活かしていきたいと思います。続いて副会長よろしくお願いします。

柴田副会長

私は市民の立場で参加している者なんですけども、いろいろいただいた資料を見て、今までこれだけのことを考えられていたのか、専門家の方が関わっていたのか、中には実行されていたことがあったりとかして、正直言って非常に驚いています。

それっていうのも、住んでいて実感が全くないからなんです。それで中心市街地活性化が必要かどうかということなんですけども、これもすごく考えました。原点に立ち戻って必要なのかということ考えた時に、やっぱり結論としては必要なんじゃないか、中途半端なまま、このまちが終わってしまうのは非常にさびしいというふうに思いました。

殿町に私の友人で、70歳後半の方がいらっしゃるんですけども、彼女は普段からパンツ1枚買いに行くのも、バスに乗って行かないといけないということを嘆いています。でも、その彼女はまちづくり塾に参加したりして、かなり地域の活性化のために何とか自分は何かできないかということを考えてきたんですけど、昨夜ちょっと電話をしたら、もうすでにこのような感想を言っているんですね。

愛着を感じないまちになってしまった。そこに住む人が愛着を感じないまちに、他から来る人、いわゆる観光客ですね。観光客が何かを感じるわけがない。というふうにまで言

い切っているわけです。

これが、今住んでいる地元住民の大きな声ではないかなというふうに思っております。

作野会長

どうもありがとうございました。過疎地域の論で「誇りの喪失」というのがあって、人が減る機能が無くなるだけでなく、誇りそのものを失って地域が失われた状態になっているという、そういうものに通じる状況があるかと感じました。

最後に私のほうから簡単に、個人としての意見を申し上げたいと思います。ばらばらな議論なんですけど、1つは非常に各論なんですけど、交通の問題ですね、自動車の問題が悩ましい問題です。

私は、こういう会があるとできるだけバスで来るんですけど、それで特に不便はないんですけど、きょうはちょっと車で来たんですけど。

かつてこのような会、もうちょっと現場に近い会をやった時にですね、作野はけしからんと。私が言っているわけじゃないですが、歩いて暮らそう中心市街地みたいなのが非常に流行って、他の委員さんはみんなそういうことを言って、私はひとこともそれは言っていないんですけども、違くと地元の商店主が、自動車で入れないようなまちはだめなんだと、それでは商売が成り立たないと、毎日のようにファックスとか脅迫まがいで私が言った意見ならいいんですけど、他人の言われた意見に非常に心を痛めたんですけど、ですが私も正直言って結論は持っていないんですね。

福間さんがおっしゃるように、無料の駐車場を探してしまうと、私は100万都市にも住んだことがあるんですけど、100万都市に行くということはありませんで、探すだけ無駄なんですよ。でも地元の人を探しちゃうと、でもそういう感覚も非常に良くわかる。

中心市街地へ車を乗り入れたほうがよいのか、乗り入れないほうがよいのか、そういうふうに区別する話ではないと思うんですけど、そういうことはひとつ悩んでおります。

ふたつ目にですね、前回の中心市街地活性化基本計画の改訂の時に非常に大きい議論というか、コンセプトとして出たのは、水を活かしたまちづくりというのが、非常に大きく上がっていました。

これはみなさん十分御承知のように、途中委員さんのお話しもありましたように、本来水運による商業機能、特に白潟や天神町あたりですね、それからこちら側もそうなんですけども、それが無くなって、あるいは隠岐とか大根島へ行く船が出て行ったあと、そういう機能が無くなったら、それはほとんどまるまる無くなるわけですね。

そうすると、水があるんだけど、ちょっとした観光資源と堀川遊覧で使っていると、むしろ堀川遊覧が走るまでは、みなさん御存知のように農業水利権がかかっている、都市の人は利用できないというような状況だったんですね。

これを直ちに活かすかということもあるんですが、5年前ぐらいにすごく長い間議論したのは、これからの時代、水を活かし緑あふれるまちにするんだという強い意見がございました。私はそのことで、ずいぶん考えが変わったように思います。そういった点を個人的には、問題提起させていただきたいと思います。

そこで今、大変皆さま、的確に時間を守っていただいて、一通り御意見をお聞きしまして、ちょっと一旦ここで私のほうで簡単にまとめをして、その後お二人のアドバイザーさんから御意見をちょうだいして、コメントをちょうだいしてちょっと休憩したいと思いません。

まとめにはならないんですけども、今お話しをお聞きしていると、大きいピラミッドをイメージしまして、3段階の跳び箱をイメージいたしました。

1番下の段の具体策の部分としてはですね、冒頭に出たゾーニングというか線引き、都市計画でいう線引きではなくて、中心市街地活性化法にかかわる対象エリアの問題、これが1つ。それとはちょっと違う意味で土地利用計画とか、そういうゾーニングの問題。あるいは具体策ではないかもしれませんが、3つ目に新しい要素を盛り込むとか、集中投下、特色を出すというようなものあるいは、投資的にも集中投下するという問題。それから、もう1つは具体策の4つ目として、行政の動きとか計画の具体性とかそういったようなものが出ていたように思います。

次に真ん中の跳び箱なんですが、不可分ではあるんですが、もう少し抽象的なシステムとしてどうあるべきかと、具体的に近いんですが、1つは交通の問題ですね、公共交通及びマイカーも含めて人の動きですね、そういう移動というか交通の問題、このシステムはどう捉えるか、それから2つ目にマンションの話がたくさん出ていましたが、居住がどうあるべきかと、これはエリアとして人が住めばよいのかどうか、あるいは住んだらコミュニティのあり方はどうなのかという問題。それから3つ目は人の判断の問題だと思います。これは商店街や地元の方がですね、協力という言い方は変ですが、意識をまとめたり意識を変化したりするというそういったようなこと、人の価値判断みたいなもの、そういうシステムの問題が出たと思います。

1番上の跳び箱なんですが、実はほとんど今のところ委員さんから明快な御意見がでな

かったんですが、コンセプトのようなものですね。松江のまちは、あるいは松江の中心市街地は何なんだと、どうなんだと、何で行くんだというシンボルなりコンセプトその部分と、これはこのあと御議論があろうかと思えます。

こういう3段の問題で少しずつ整理をしていきたいと思えます。これとは別枠でそういうものに対して複数の御意見が出ましたが、三段の跳び箱に対して評価とかP D C AのDはともかくC Aというような、そういうチェックの話、これが別途別枠で監査役のように、それらを見守るとそういう仕組みが、今のところないのではないかという、このような御意見をまとめさせていただきたいと思えます。

それでは続きまして、地元や全国各地で御活躍のお二人のアドバイザーの先生に、御意見なり情報提供をいただければと思えます。初めに横森先生よろしくお願ひいたします。

横森アドバイザー

パワーポイントで資料を用意してきましたんで、映してもらえますか。市民代表の方がいらっしゃっていますけど、これは昨年、経済産業省が全国の20歳以上の男女を対象にしたアンケート調査というのをやりました。これは中心市街地活性化にかかわる国民の意識の調査なんですけども、これ非常に興味深い結果でして、中心市街地というものを市民はどう見ているかということですね、1,400ぐらいのサンプルで調べたものです。

この結果は市民の人たちというのは、中心市街地が空洞化しても何も困らないということですね。多くの市民にとって空洞化というのは、日常生活には関係がないと思っている人が大部分だということですね。

中心市街地活性化といっても、それは商店街振興だと、イコールだと見ていると多くの人がですね、ですから商店街の再生を税金でやるのかと、それは反対だという意見の人が多いということですね。これはアンケート調査でそういうふうに答えているということです。

中心市街地の活性化ということは、時代の流れに反するんだと、つまり中心市街地、まちの顔というふうに言うけれど、その衰退というのは時代の流れなんだと、時代が進むにつれて、まちの顔の場所っていうのは変わっていくものなんだ。今までも変わってきたと、これからもだから変わって当たり前だと、だから昔のまちの顔が無くなっていくのは、それは仕方がないことだということですね。

歴史的な都市機能を集積地を建て直すというふうに言う、そういう見方も説得力がない。過去の栄光を復活させるということは、これに対しても消極的ですね。

こういう意見がアンケート調査で出てきましたけど、これはどこに行っても、例えば私が講演した時に商店街関係者、行政関係者、商工会議所の方々は、中心市街地活性化は必要だということを言うんですけど、その中に例えば市民の方が混ざっていると必ずこういう意見を言います。何で活性化しなければいけないんですか、という意見が必ず出ます。これは多くの日本の国民、市民が考えている現在の中心市街地への視点です。

こういった視点で捉えている市民なんですけども、違った見方でこういう設問の仕方をする、ちょっと違った意見が出てきますね。

1つは、若い人というのは案外空洞化というのは、自分たちは困らないけども、自分たちの子供の世代、あるいは孫の世代にとっては、非常に危機的状況だと捉えているということですね。

ですから、今自分たちは車で自由に移動できて、全然困らない、中心市街地は行かない。郊外の大型店で買物すれば、それでいいと言ってるんだけど、このままずっといったら自分たちの子供の時代は、どうなるかということですね、かなり危機的だと捉えています。こういう聞き方をすると、そうだというふうには捉えているということですね。

特に20代、30代これは非常に意外なんですけども、空洞化は次世代のまちづくりにおける危機的状況だというふうには答える人が、かなり多く出てきます。これは非常に意外な結果なんですけど、実はそういうふうにして捉えている人が多いということですね。

40代以上の人は、これも現状は困らないんだけど、自分たちが年をとった時に、老後になった時に、どういうふうになってしまうのかという、そういう生活の不安ですね、先ほどお年寄りの方の意見が出ましたけども、例えば車が運転できなくなって、バスを利用せざるを得ない、だけどバスの本数も減ってしまうというような状況、あるいはバス路線が無くなってしまいうような、そういうふうなことになってしまったらどうしようと、買い物にも行けないし、病院にも行けなくなるんじゃないかというふうな不安を抱えているということですね。

ですから、そういった際に提示できるのはコンパクトなまちづくり、コンパクトシティというのが、これからの将来の自分たちの暮らしやまちにとっては、必要だという考え方ですね。

ですから空洞化しても現在は困らないけど、将来は非常に困るということをお考えましようということですね。そのためには、自分たちが年をとった時、あるいは自分たちの子供が、人口が1億人をきったり、数千万人になるという状況の中で、どの都市も非常に縮ん

でいくわけですね。そういった時のまちづくりというのは、どういうまちづくりが望ましいのかということをおもなで考えるということが、重要なんだということですね。

そういうものをひとつ具体化したのが、青森市のコンパクトシティーのケースということで、青森市は都市計画のマスタープランにおいて、このコンパクトシティーの形成を謳ったということですね。

大きな根拠になっているのは、市街地の拡大をどんどん行っていくと、新たな行財政需要を生んでいくということですね、発生させていくと。もうそういうことはですね、これから人口が減っていくわけですから、当然税収も減る。働く人たちがどんどん減っていくわけですから、お年寄りが増えてむしろ受給、もらう人のほうが増えていくわけですから、払う人が減っていくわけですので、そういう行財政が非常に厳しくなるといった時に、もうそういう拡大的なまちを支えるということではできなくなる。

ですから既存のストックを有効に活用した、効率的で効果的な都市整備が必要だと、それから周辺に広がる自然や農業環境を守っていくことも大事だと。

ですから青森市は、駅を中心に中心市街地、ここをインナーと性格づけて、そこから少し離れた場所ですね、これをミッドシティーというふうに性格づけて、その外側をアウトナーというふうに性格づけて、ミッドが開発の限界線だと、これ以上その外側に、ここですね、ここから先は基本的に開発を抑制していくということで、その3つの都市構造に応じた都市整備を推進していくということです。

なぜそういう発想が生まれたかということ、青森市はとにかく雪が降る所、豪雪地帯なんですね。こういう大きな都市の中でも、世界有数の豪雪都市だということで、ここに統計がありますけども、まちが広がっていくということは、道路がどんどん外側に広がっていくということですね。道路が広がっていくということは、道路が広がった分だけ除排雪の路線がどんどん拡大していくということで、こういう路線がどんどん延びていくんですね。94年から2003年にかけても、こんなに延びているんです。そうすると、それに応じて年間に除排雪費用だけで、例えば20億とか多い時には30億近くかかっちゃうということで、これは毎年必ず発生する費用、この費用がどんどん毎年増えていくということは、とてもこれから支えていくことができないということで、とにかくまちの広がりを抑えて、道路の除排雪の費用を節約していこうということではないと、とてもこれからやっていけないということです。

まちがドーナツ化して拡大していくということは、要するに密度が非常に低い市街地が

拡大することによって、公共投資が非常に増加していくと、それから郊外部から中心部への交通渋滞が激しくなると、朝、夕ですね。それからまちの顔である中心市街地が衰退すると、これからは少子高齢化が進展していくということで、実際に先ほど病院の話がありましたけれども、青森市もかつてはこういう状況だったんですね。町の中にかつては県立病院というのが駅前にあったんですけど、こんな遠いところに移っちゃったわけですね。県立の図書館というのもこんなに遠い所に移っちゃったということで、こういう病院や図書館等の郊外移転というのが起こって、もちろん商業集積ですね、郊外に郊外型の施設ができるっていうのも、大きな要因なんですけども、実はそういう病院や図書館等がまちの外に出ることによって、衰退に非常に大きな影響を与えたということで、今、中心部にいろんな再開発事業をやったりマンションを作ったり、様々なことをしているということですね。

1つ有名なのは再開発ビル「アウガ」というのがこの建物なんですけども、ここに図書館を入れたんですね。これは市立図書館で、離れた所にあったのをこの再開発ビルの中に入れた。これが非常に使い勝手が良くて、ですからただ箱物を整備するんじゃなくて、使い勝手を非常に良くしたということで、閉館時間が21時なんですね、しかも休みがないと。この下に魚の市場が地下に入っているんですけども、ここで魚とか買った人が図書館を利用した時には冷蔵ロッカーも用意されているんで、そこに入れておけば安心だということですね。非常に使い勝手が良く考えると、だからただ単に箱物を作る、箱物もだから遠い所に置くのではなくて、駅の真ん前、中心市街地のど真ん中に置くということで、お年寄りの利用も多いんですけども、高校生の利用も非常に多いということで、これが1つの拠点になっているということですね。

コンパクトシティのイメージというのはですね、ちょっと皆さんわかりにくいという話、必ず聞かれるんですけども、イメージとしてまとめると、多くの日本の都市というのはイメージとしてはこういう形で、こういう市街地がいくつかまとまってあるんですけども、そこに都市機能、商業機能もそうですし行政機能もですね、様々な福祉機能も分散的にばらばらにあるという、これをコンパクトシティのまちというのは、基本的には中心市街地それからそれぞれの地区センター、ディストリクトセンターにですね、必要な機能をこういうふうに配置していくと、中心市街地にはより大規模な集客施設をここにまとめていくと、ただそれ以外の所は何もしないのかというと、そうではなくてここには必要な機能は配置していくということですね。

ですから中心市街地の活性化でコンパクトシティという、じゃあこの中心市街地以外は全部切り捨てるのかという話がよく出るんですけど、そうではないですね、こういう所には必要な機能は配置していくと、だから例えば大きな総合スーパーは、ここには必要ないけどここには置くと、ここには食料品中心の小さなミニスーパーは配置しておけば非常に暮らしやすいまちになるということですね。こういうイメージです。

これは新潟県がまとめた図で、非常にわかりやすいんで私も使わせてもらっているんですけども、新潟県は今までのまちづくりというのは、こういう形で、前回、私がお話したモデル図を図式的にわかりやすくしたものなんですけども、現状はこういう形で駅を中心に、中心部が空洞化して郊外への公共施設の移転が起こったり、ロードサイドの開発が進んでスプロール化が起こったり、こういう状況がある。

これをイメージとしては、郊外のこういう住宅のスプロールとか公共施設の移転、沿道開発ですね、それから中心部の空洞化、空き地の発生、商店街の衰退というのが起こっていると、こういうイメージからこれからのまちづくりというのは、こういう形コンパクトなまちづくりというのが、こういうイメージになるということで、1つは豊かな自然環境を保全するということが大事なことです。

ですから農業と中心部ににぎわいも両立するということですね。都市機能の再集積ということかというと、まちなか居住、にぎわいの再生それから交通機能を整備するというのは非常に大事で、先ほど自動車協会の方のお話がありましたけれども、こういう形で駅前あるいはバスターミナルの整備とか駅の整備とか、それから同時に沿道開発の抑制というのが必要だと、バスを中心にした公共交通機関の利用の促進というのをやらないといけない。これをやらないとアクセスの手段が確保できないわけですから、結局、車中心の社会になってしまうということですね。

ですから先ほどのイメージと少し重ね合わせますと、ここ中心部にはこういう様々な機能が付く、こういうそれぞれの住宅の集積がある場所には、先ほど言いましたけれど小さな食品スーパーや郵便局やあるいは市役所の出張所とかですね、そういう機能は配置していくということですね。大規模な集客施設については中心部になるべく集めていって、ワンストップでそこに行くとき基本的な用事は歩いて足せると。だから歩いて暮らせるまちというのは、基本的にはこの中でイメージできると、あるいはこういう小さな集約の中でイメージできることですね。

映画館に行って劇場に行って大きなスーパーで買物をして役所に行ってというイメージ

ですと、こういう所に基本的には機能を集めていって、そこの中を歩いて移動できるという事ですね。こういうイメージです。

そのためには、何が必要かという、今回のまちづくり3法の改正で「車の両輪論」というのがあるんですけども、実はこれはイギリスがやっていたことを、ある意味でいうとまねたといえますか、それをモデルに考えたんですね。

これはずっと前から私この図を使って説明していたんですけども、日本は今までこちら側を一生懸命やってきたんですね。中心市街地の振興、日本ではTMOと言っていたんですけど、そういう事業によって中心市街地の事業は、イギリスに負けないぐらいたくさんやってきました。もうメニューとしては特別海外から学ぶ必要もないぐらい、メニューとしては事業としてはたくさんやりました。けども、こっちを全然やらなかったですね。

ですから郊外施設の規制を、大規模な集客施設の規制をやると同時にそれを中心市街地へ誘導するというのをやらなかったですね。こちらの車輪が動かなくて、こちらだけ非常に高速で動きましたんで、同じ所をここを中心にくるぐる回っていたと、それで前に進まないということだったんですね。

これではだめだということが、実はまちづくり3法の平成10年から平成18年にかけての8年間でようやくわかってきたんですね。これではだめだということで、こちら側も今度は都市計画法の改正を中心に厳しくこちらをやるのと、初めてこちら側が、これは条件が揃ったというだけですから、動き出すためにはもうちょっと時間が必要なんです。こちら側が動き出すと初めて、前に進むということが起こり得るということですね。

ただこれは市町村のやる気ですから、今回のまちづくり3法の改正では、やる気のある市町村には、国の様々な補助金ですね、様々なメニューがあるんですけど、こちらを集中的に投下する。やる気のない所ですね、こちら側は全然手をつけない、相変わらずこちらだけやるとかというような所には、応援しないという仕組みを作ったということです。

今まではばら撒きで、こちらは何にもしなくて、むしろ郊外に新しいまちを作って、そこに大規模集客施設である商業施設を誘致して、一方で中心市街地を活性化するという基本計画を作ったり、両方やっている所でも、ばら撒きで応援してきたんですけども、そういうのは、一切やめますということですね。

ここでの議論は、主にこちらの話になるんですけど、実はこちらとの組み合わせがもっとも大事なんで、こちらだけやっても、以前のまちづくり3法の、私はよく言うんですけど、失敗ですね。これの繰り返しになる。

だから、今必要なことは、そういう失敗から学ばなければいけない。先ほど出ましたけど、なぜうまくいかなかったのかということをしてですね、反省する、チェックするということから出発しないといけないということですね。

これはよく言うんですけど、まちづくりの過程というのは、P D C Aサイクルという言葉で最近よく使います。先ほどもお話しがありましたけども、プラン、ドゥー、チェック、アクションということですけど、まず大事なことは自分のまちが、今どういう状況なのかしっかり健康診断をするということですね。どこが悪いのか、どこがよいのか、ちゃんと血液検査をして体の状況をしっかりチェックする、ヘルスチェックというのが大事ですね。

これは、客観的に捉えないといけないんで、私はこう思います、私はこう思いますというのをいくら積み重ねてもだめなんですね、これはみんなが納得する客観的な指標をもって、まちの現状をしっかりと把握するということが大事ですね。そこからスウオット（SWOT）分析というんですけど、そのまちが持っている強み、弱みですね、例えば松江は非常に観光資源が豊富、歴史的な資源が豊富だというのは、そういう強みですね。これSが強みということです。それから弱みですね、それからチャンス、それからTは脅威ですね、こういうものをしっかりと分析して、その中から松江にあった戦略ビジョンを作っていくと、ここの委員会は、そういう役割になるとは思いますけども、そういう役割を作っていく。

それをただ戦略ビジョンにして、絵に描いた餅に終わらせたらだめなんで、これを具体的な何をするかという実効性を持ったビジネスプランに作り上げていくということですね。

先ほどマニュアルが配られましたけれども、今回の基本計画の認定では、このビジネスプランをしっかりと作らないと認定しませんと、絵に描いた餅ではだめですよと、実効性のあるプランをしっかりと事業をこの中に入れ込みなさいということを厳しく審査するということですね。具体的なアクションプランを作り上げて、それを実施してそれをチェックするというのが大事なわけで、1つは年次報告書をしっかりと作ると、毎年どの程度事業が進捗し、どこまでいったかというのを公にすることですね、その評価をしてさらに必要な修正があれば修正を行って、こういうサイクルを作り上げていくというのが、イギリスではよくやられている手法ですけども、今回のP D C Aというのは基本的にこういうことを目指してやっていくということですね。

作野会長

お聞きしていると、市場経済の流れと国家的な政策のいろんな規制の中で、私たちが非常に翻弄されたと、それを他人のせいにするんじゃなくて、私たち自身が反省してですね、いよいよこのあるべき姿というのを決意を持って、向かわないといけないというようなことを痛感させられた状況のコメントをいただいたと思います。

それでは先ほど健康診断というのがあったんですが「まちドック」等でやっていらっしゃる毎熊先生にコメントをいただきたいと思います。

毎熊アドバイザー

島根大学の毎熊です。すでにもう横森先生からも出されましたし、皆さんからも出たんですけども、重複をおそれず簡単にコメントをさせてください。

大きく3点あるんですけど、1つは、もう何回も出ていましたけど、やっぱり評価が大事だというお話しですね。これは鈴木さんのほうから出たと思いますけども、この会議の出発点自体が、実は今までの施策等の反省なんかを、本当に踏まえているのかなあというところが、疑問というのがありますよね。確か横森先生にもお世話になったやつですね、診断助言事業という分厚い報告書もありますけども、これも手渡しはされていますけど、それにどんなことが書いてあったかという、だからここに問題点が書いてあるとすれば、そこからどういうふうにしていこうかというところが、ここでは少なくとも議論としては行われていないというところがありますね。

あるいは、評価自体がどこまで本当にやられているのかなという疑問はあります。例えば1つの例でいうと、坂本さんが中心となって、今やられています京店と南殿町のカラコロエリアですね、民間の事務局を山陰中央がさんやられていますけど、あそこでちょっとしたアンケートを地元の方にとらせていただいたところ、これはさっき先生がおっしゃった客観的な評価になり得ないのかもしれないかもしれませんが、地元に住んでいる人たちに聞いてみると、今の活性化基本計画が策定された当時、平成10年と比べて果たして商店街の利用頻度というのは増えたんですかというのを、実感としてお尋ねしたところですね、増えたと、ある程度肯定的に評価された人は大体1割ぐらいなんですね。変わらないというのが、5~6割あるんで、変わらないというのが1番多いんですけども、減ったと言う方が3割ぐらいおられると、平成10年にこの活性化計画をやって、ここに挙げられているような事業をたくさん行われても、人はほとんど増えていないですね、実感レベルとして増えていないということですね。

通行量調査をやればひょっとしたら別かもしれませんが、恐らく増えたというのは

あまり聞いたことはありませんね。そういうのをしっかり見据えた上で、出発しなきゃいけないというのが1つです。

もう1つは、これからの話で言うと評価が大事だという話を、先ほども非常に詳細なPDCAのサイクルのお話しがありましたけれども、ただ1つ注意したほうがいいのは、評価というのはそれだけじゃ、活かないということですよね。

単純な例を挙げて申し上げますと、今、大学でもですね、個人評価というのが始まりまして、僕らのいろんな教育とか社会貢献活動とか研究の活動が、評価されるようになってきました。今年の8月に作野先生もそうだったと思いますけど、膨大なデータを入力せよと言われたんですね。例えばこういう会議がありますね、会議に出て行ったと、出て行ったのはいい。この会議に何人ぐらい参加者がおったかというのを入れろというわけですよ。それをいったい何の評価に使うんだという話でしょ。何十人の会議に出たら中途半端で100人の会議に出たら、すばらしい業績だ。そんなわけないんで、そういうことを平気で大学は、やらせるんですよ。何でこういうことを平気で大学はやらせるかと言うと、大学には全然ビジョンがないですよ。つまり、何のために評価をしようかというのが全くないですね。あえて言うなら、この結果を給与に反映させて、もっと僕らを働かせようとしているんですけども、それで僕は言ったんですよ、金くれるぐらいなら時間をくれと言ったんです。大学側は、僕らが働くというインセンティブも理解ができていない。これは完全に愚痴ですけどね。

つまり申し上げたいことは、何のために評価するかということです。もう少し別の言葉で言うと、結局評価というのはビジョンによるということなんですね。このまちをどうしたいかというところがあって、そのビジョンをどれだけ達成しているかというのを、評価しなきゃいけないんで、さっきの話だと委員会の数なんか関係ないですね。入力する時間が無駄なだけなんで、評価のコストを考える意味でも、しっかりとビジョンを明らかにしてもらわなきゃいけない。

これは恐らく、この協議会の1番大事な所だと思いますんで、評価は大事だけれども、その前提としてビジョンが大事だということを、ひとつあえて指摘をしておきたいと思っています。

それに関連して言うと、仲田さんのほうから出たと思いますけども、今までいろんな事業をやられていますが、それは網羅し過ぎていたところも多分あるんだと思いますね。そういう意味じゃプライオリティを付けなきゃいけないんで、このプライオリティを付ける

というのは、実はですね、これまでの評価を1個1個の例えば事業を評価してたって、実は簡単には出てこないんですよ。ひとつひとつの事業の効果はわかるかもしれないけども、AとBどっちが大事かっていうのは、これほとんど価値判断の話になってくるんですよ。

ですから、このまちを例えば水で活かすというふうに行くのか、あるいは車を入れないというようにするのかというのは、今までの施策を評価したって出てこないところがありますんで、これはかなり価値の部分が強いんで、そこもさっきのビジョンと合わせて議論しなきゃいけないというところだと思います。これが1点目です。

その1点目に関連して2点目を申し上げますと、評価というのは先ほど言いましたようにそれだけじゃ機能しないんで、使われなきゃ意味がない。使うためには何が必要かと言えば、体制がしっかりしてなきゃいけないと思うんですね。

これはある会議で申し上げたことなんですけども、こういう議論をやっていると、いろんなアイデアがいろんな人から出てくるんですね。これまでもいろんなアイデアがあったはず。しかしながらさっきのちょっとしたデータで見るように、活性化というのはまだ十分に行われていないと、ということは結局アイデアがあっても実施する体制が無かったというのが、1つの問題だと思うんですね。

ですから今後、実施する体制というのをどう考えていくか、坂本さんのほうから民間主導でやっていくというお話がありましたけども、民間主導でやっていく仕組みあるいは行政もしっかりやらしてもらわなきゃいけないというところがありますんで、例えば、行政の組織の中の問題も重要になってくるかもしれません。そういう体制の問題をですね、ひとつは、しっかりしていかなくちゃいけないだろうと思います。

最後になりますけども、さっき衝撃的なアンケートの御紹介があったんですけども、ただ実感としては、そういうところがあるんですね。学生なんかと付き合ってみると、今の中心市街地の名前、どこが中心市街地かっていうのを知っている学生は、まずいないと思ったほうがいいと思います。あるいは京店とか殿町とかいっても、ほとんどわからないですね。そういう学生が多いと思います、僕の周りだけかもしれませんが。

例えば京店の何とかという店だったら、知っているということはあるんですけども、エリアとして認知されていない。エリアとして認知されないってことは、結局さっきデータ出てきましたけど、中心市街地の中の人だけ頑張っていて、外の人は無関心かあるいはどうでもいいと思っているという、そういうこと。さっきのアンケートもそうなんですけ

ど。

ただきょうのお話で、中心市街地が何で必要かということは何人かの方がおっしゃいましたけども、それが果たして本当であれば、これ大事な話なんですね。だから、中心市街地の中に住んでいる人だけの問題じゃないということになってくる。これを中心市街地以外の人、本当にそうだと思うようになれば、これは何もしなくても中心市街地が活性化するはずなんですね。

それはどういうことかという、関係ないから自分はサティが便利なんでサティに行く、でも便利以上の何かの価値が中心市街地にあると思えば、あんまり楽しくないけども、松江の中心市街地に行ってみるかという話になるはずなんですね。ですから恐らくエリアの設定自体が知られていなかったという問題も含めて、もっと外の人に中心市街地の意味みたいなものを、アピールしていくことが必要なということがあります。

それは、中心市街地を盛んにするという意味でもそうですし、さっきお話しが出てきましたけども、中心市街地外の人からすれば、この中心市街地に特別にたくさんお金が投入されるわけですから、税金をそこに使う理由というものを、つまり納税者として知る権利があるんですね。特に外の人には知る権利があるんで、これは特に行政としてしっかり情報を出していかなきゃいけないという所があります。

最後にもう1つそれに関連して言うと、うまくいけば中心市街地の外にいる人に対する情報がうまく伝われば、これは単なる客としてだけじゃなくて、さっき三枝さんのお友達がお店を開かれたとありましたが、学生だってあるいは学生じゃなくたって、外の人が、じゃあ中に入って自分で何かしようかという話がひょっとしたら出てくるかもしれません。

ですからお客プラス参加者というんですかね、そういう者として外にPRというのは大事なかなというように思いました。

作野会長

どうもありがとうございました。非常に貴重な御指摘をいただいたと思います。一点だけ、かかわる主体の問題なんですけど、恐らく中の人だけが、頑張っているというよりも、中の人でも頑張っていないとか、頑張るとい言葉が適切かどうか分かりませんが、要するにここにいらっしゃる皆さんのように、かかわる人だけが関わっていて、そうでない人は関わっていないという所に読み替えさせていただいてですね、あとはすべて大賛成だったと思いますので、そういう当事者問題ということもですね、あるいは主体ということ

ぜひ検討していきたいと思います。

それではまだまだお話しがあると思いますが、今から5分程度休憩いたしまして、また再開いたします。よろしくお願いいたします。

(休憩)

(議事)

作野会長

申し訳ございません。それではそろそろ再開させていただきたいと思います。それで初めにですね、時間のことも考えまして、議事の3に挙がっておるんですが、他の関連計画の状況について、これは委員の皆さんからの御意見の中で、トータルで考えないといけないとか、そういうビジョンが重要だという御指摘をコメンテーターの先生からもいただいております。

現在新しい松江市になりましたので、ビジョンが策定過程の中で、この中心市街地活性化基本計画も考えようとしておりますので、そのあたりの事実関係のみですね、御紹介いただきたいと思いますので、すみませんが事務局のほう、簡単に御説明いただけますでしょうか。

事務局(春木副参事)

それでは、事務局のほうから説明させていただきたいと思います。現在、この活性化計画の中の上位計画になる総合計画をはじめとする都市計画マスタープラン、住宅マスタープラン、定住推進計画、公共交通体系整備計画、大橋川周辺まちづくり基本計画の計6点の事業の計画が現在策定中でございます。

ただ、今回の活性化計画と同時進行の策定計画あるいは、活性化計画の策定後に完成する計画がほとんどでございまして、現在のところお示しする内容がございませんが、総合計画及び都市マスタープランにつきましては、この活性化計画と非常に関係が深い計画でございまして、調整を図りながら私どもの計画等の関係を深く密接にして上位計画にも入れていくような調整の図り方で今後進めていくところでございます。

状況の表につきましては、総合計画あるいはマスタープランなどの策定期等を明示しておりますので、今回詳しい内容が示されることができておりませんので、そのへんを御了承をお願いしたいと思います。

作野会長

どうもありがとうございました。もうすべての計画より先にこちらのほうも検討しないといけないという衝撃的な事実ですね、これはビジョンが大事だと御指摘いただいたのに、そういうビジョンに基づいて動けないというこの問題があります。恐らく毎熊先生からのアドバイスとしては、そういう所こそが問題なんだろうと思っておりまして、個人的な感想ですが、前回の活性化基本計画もですね、改訂作業でしたので私が関わらせていただいたのはほとんどあらかじめ規定路線があると、その規定路線がどうしてできたかまでは追求しないんですが、長年、市等が積み上げてきたものが頑としてあって、なかなかその流れから動けない、あるいは予算措置等もありますので、議会とか執行部等の意見が非常に反映するというようなことがあるのではないかなと思っております。

どうでしょう。一つのテーマとしてビジョンの話、それから上位計画等、関連計画等とのからみですね、その点についてのみ、さしあたって御意見のある方いらっしゃいますでしょうか。

べき論でも結構ですし、それだったらこの活性化基本計画はどう作るんだとか、そういうことについて御意見ございますでしょうか。横森先生どうぞ。

横森アドバイザー

実はこれ今回の中活法ですね、基本計画の認定に際して、上位計画である市の総合計画それから都市計画マスタープランとの整合性というのは、認定の重要な基準になるんですね。

これは要するに整合性といっても、要するに都市計画のマスタープランや総合計画においてコンパクトなまちづくりを目差すということが書かれているかどうかということが重要なんですね。

ですからそういう方向に進んでいると思いますので、そういう方向で整合性があれば問題ないということですので、それで同時並行的にやっているということだろうと思います。

作野会長

今のは手続き論としてアドバイスをいただきました。課長どうぞ。

事務局（松本課長）

松本でございます。今、総合計画はかなり部会等で進んでおりまして、その中で私どもの活性化基本計画で出たビジョン等は総合計画に組み入れていただくということで、調整をしております。

それから都市計画マスタープランについても、まだきちっとした立ち上がりはできておりませんが、これも同じ部の中ですので、この中で先ほど横森先生が言われたように、やはりコンパクトシティを目差すんだという方向で調整をしております。

作野会長

まあそうなんですけど、コンパクトシティを目差すかどうかというのは、我々としてはまだ決めているわけではないですよ。だからその点をどっちが先かというような議論になると思うんですよ。

例えば総合計画の部会で、コンパクトシティを目差すんだと決められているんだしたら、逆に我々はそれを尊重すべきかなと思いますし、そのあたりどうなんでしょう。

やっぱりあんまり結論ありきで向かうのは、どうかなと思っているんですが。

事務局（松本課長）

すみません。大変言葉足らずで。ここの協議会が先行していますので、ここの意見を尊重するというので、上位計画に位置付けていく方向で、今調整をさせていただいております。

作野会長

ありがとうございます。行政システムとかそう計画等のからみで毎熊先生どうでしょうか。

毎熊アドバイザー

これはものすごくきれいごとなんですけど、総合計画というのは実はその上にもう一つあって、というのはこれマニフェストなんですよ、きれいことを言うよね。

だから今の市長が、選挙でマニフェストを一応、一応と言うと失礼ですけども公表されていて、そこに恐らくこの中心市街地関係あるいは都市計画関係のビジョンを描かれているはずなんで、そこはどんな感じで書かれているんですか。

作野会長

事務局さんなり、委員の皆さんで御存知の方がいらっしゃれば。門脇さん。

門脇委員

私も総合計画のほうです、出席いたしておりますけど、これ三部会にわかれておりまして、今までやってきました具体的な内容から申し上げますと、先ほどちょっと触れましたように、1万人対象のアンケートを実施したと、これすなわちまちづくり関係ですね。

それと各公民館単位の地区の座談会ですね、そこをずっと手分けいたしまして巡回して生の声を聞いていくということをやってきました。

特にこの生の声を聞く段階になりまして、市の当局の言いたい話もあるんだけど、逆に要望がどんどん上がってきまして、要望だけで2時間があっという間に過ぎてしまうという中身なんですね。

要するに、今までの蓄積された行政に対する不平不満的な物がたくさん上がってくると、特にその中でも先ほどちょっと申しましたように今の仕事、職という問題や雇用の問題それと観光の問題なりですね、育児の問題だったり多面にわたって高齢化少子化の問題も含めた中で、いろいろと御意見が出てまいっております。

アンケートにつきましては、7月段階で中間報告というものがまとめられておりまして、さっきちょっと触れましたけど、今の中心市街地の魅力とかそういう問題に対して、市民サイドでは非常に無関心というのが多いんじゃないかという点なんですね。

私らもこういう関連の会議体でなければ、無関心派のひとりだったのかしれませんけれどもですね。非常にそういう点が今後ですね、だから先ほど作野先生のお話しがございましたけど、島根大学さんで授業をやってもらうのも大変結構だと思うんですけど、もうちょっと一般公民館単位で出前講座とかそういうものを要望していきたいと、観光の面にあっても同じようにですね、特に私は観光につきましては、いつも市民参加でなくて観光の関係先の方が集まられて、いろいろと物事を決めていかれるという点が一つ気になっている点でございます。

作野会長

恐らく前半の議論にもありましたように、そういう当事者の問題、当事者意識の問題というのは、これはあらゆる問題でそういうことが起こっておりますので、ぜひそういう点もですね、なんか中心市街地の活性化というものが、そういう問題の突破口の一つにもなるんじゃないかなというふうに感じた次第です。

それでは、たっぷり時間があると思っていたら、だんだん時間も無くなってきたんですけど、まだ御議論いただきますが、ちょっときょうのところはなるべく先ほど申し上げたようなピラミッド、跳び箱の上から攻めていきたいと、あるべき論とかですね、あるいは先にある具体的な論点を整理してまだ決めておりませんが、このあとワーキングチーム等をつくらせていただく、そういうところへ橋渡しをしていきたいというふうに思っております。

それで大変恐縮なんですけど、小汀さんのほうから御意見をあらかじめきちんと整理されて御提案いただいていますので、まず後半の議論として小汀さんのほうから御提案いただきたいと思います。

小汀委員

本日の会議に出る前に、ああやってみなさんにも配られていると思いますが、出欠報告書の中に意見があればということで、備考欄がありました。ちょっと読ませていただきます。

松江市の中心市街地活性化を考える上で、用途として商店街、住宅地、駐車場それに松江の場合には寺や公共地等が区別されると思いますが、それをパズルの手法で用地の転売交換等で目的に合わせてきちんと区別することが大切だと思う。

その可能性があるのが、検討中の大橋川改修事業であり、市を含む行政の承認した土地家屋調査士あるいは弁護士等を窓口にして特別の優遇税制を導入して用地のミスマッチを無くす。この事業を活性化の千載一遇のチャンスと捉えていくべきだと思う。

以上のようなことを、私はファックスで送りました。事務局からあるいはきょうも委員長から、この部分について発言をしていただきたいということでしたが、つい先ほどの議論の部分も含めて今の上位計画云々と、あるいはこの委員会がなぜこうやって召集されて、何を審議すべきかという部分を考えてみますと、私はこのことを書いたんですけども、ちょっと論からはずれておったかなという心配をしているんですね。

と言いますのは、あくまでもこのたびの国交省とか、このまちづくりの部分で3法が改正されてですね、いわゆる答申案とかスケジュール的に3月までにこういう方向でコンパクトシティを目差すんだぞっていう部分でまとめなきゃいけないものと、中長期的に松江市のいわゆるまちづくり、特に中心市街地の活性化というものを、どういうものを目差すかということは、タイムスケジュール的にも私はちょっと別の問題ではないかなというふうに先ほどから話を聞いてって思ったんですね。

要は、そこと包括して考えた場合には、今私が提言申し上げたことも含めて今後非常に大きな事業、大橋川改修問題というものがあるわけで、これも実はそういう改修をするのかせんのか、100年に1回だったら水につかってもいいじゃないか、という極論を述べられる人もおられる中で、片方では行政のほうは事業を推進するためにやっていかなきゃいけない。

このものも例えば先ほどのアンケートにあったように、中心市街地の活性化なんていう

のは、そんな税金を使ってやる必要はない。あるいは、それらは私らにとっては関係ない話だという部分の論も含めて、ここで検討しようと思ったってなかなか意見集約は私はできないのではないかなと思っておりまして、まずこの委員会では私は、来年の3月までに松江市がこのコンパクトシティを推進の部分でいこうと思えば、それを重点にいかないと将来的なまちづくりも含めて、ここで議論をしていくと非常に焦点がぼやけてしまうんじゃないのかなと思いました。

作野会長

すみません、今の点について私のほうから大変せんえつですけど、見解を申し上げます。おっしゃるように、来年3月、実際にはもっと手前のところでまとめる計画を議論する一方で、中長期的なまちづくりの観点、これはやはり二者択一ではなくてですね、平行して考えていきたいと思います。

将来ビジョンなくして、現在の基本計画というものを考えるということは、あり得ないと考えたいと思います。仮にそれが失敗したとしても、中長期的なことを考えながらやらないと意味がないのではないかというふうに思いますので、その所は恐らく皆さまのアプローチは違ってですね、出口は一緒だと思いますので、そのようなことで前回も私のように発言させていただきましたので、そういう前提で御議論いただきたいと思います。その上で、早速小汀さんの論点を少し整理して皆さまにも御検討いただきたいと思います。

論点が2つあります。1つは土地の所有と流動化が起こらないと、これは門脇さんから中山間地域の話をされましたけど、全く同じことを国でも県でも議論しております。同じことが中心市街地でも起こっております。土地の流動性が極めて低い。それは悪いというわけじゃなくて、そういう所有形態、法体系になっているということ。

2つ目に、私たちが絶対に考えていけないといけない大橋川周辺のまちづくりのことでですね。これは国交省中心で、うちの飯野先生も出られてですね、まちづくりの議論もされているんですが、当然これは是非論をここでは議論できませんが、視野に入れて考えないといけないと、この2側面があると思います。

せっかく御意見をいただきましたので、ちょっとここで簡単に意見交換をしたいと思いますが、どちらの点でも結構ですので委員のみなさん、今の2点について何か御見解はございますでしょうか。鈴木さんどうぞ。

鈴木委員

どちらにもかかわるんだと思いますけど、今、会長さんから将来ビジョンなくしての計

画はあり得ないという話があったんですけども、全くそのとおりだと思います。

よく「まちの顔」という言葉が、中心市街地の所で出ていますけれども、要するに松江ってどういうまちなんですかと言われた時に、外から来た人を案内する場所が中心市街地なのかなと思います。周辺にスプロールしたところのものは、全国どこへ行っても同じ部分というのはこれはもうある程度やむを得ないですし、離れた観光地に行けば別ですけども、周辺の市街地の所はですね、どこでも一緒でもよいと思うんです。

やはり中心市街地には、松江にしかないものがあるということがベースでまちづくりをしないと、他のまちと同じ中心市街地を作っても、それは意味がないんじゃないのかなと思います。

大橋川の所を考えるのであれば、そういう視点から水のまちだと言うのであれば、それを生かすものを考えればよいわけですし、その時に堤防でよいのであれば堤防ですし、堤防を作らないというんだったらないとかですね。

先ほど毎熊先生だったと思いますけども、評価をするのに基準が必要だとおっしゃいましたが、その基準は、作野先生もおっしゃったコンセプトだと思います。どういうまちにするのか、そのコンセプトをしっかりと作ってあれば、それに合っているか合っていないかという判断で個別の所は考えることができるので、全体がぶれないまちづくりができるんじゃないかなと、そんなふうに思います。

作野会長

どうもありがとうございました。どうでしょうか、他にその議論に関して。仲田さん。

仲田委員

この協議会の中で、確かにこの部屋の中で幾ら話し合っても、何にも進まないような気がして、今のその松江市の問題提起もあったんですけど、これ地元というか、いわゆるそういったまちの声ですね、そういったものについては、どういう手法で吸い上げて、この議論の場に活かしていくのかというのが、ちょっと前回からも疑問であったんですけど、これは何かよい方法というのはないものなんでしょうか。

作野会長

僕はあんまり喋るといけないんで、とりあえず事務局。

事務局（松本課長）

今、考えておりますのは中心市街地、どういう範囲になるかわかりませんが、中心市街地に居住している方と、それ以外に住んでいる方にアンケート調査を試みようかなと、

それでその意見をまとめて、この協議会に御提示したいなと、こういうふうに今考えております。

作野会長

では泉さんどうぞ。

泉委員

ちょっと的はずれかもわかりませんが、この中心市街地の問題、特に1番中心部の物理的に中心部なんですけど、大橋川の改修の問題を含めて考えるとですね、非常に問題があるんですよ。ということは、あれだけの多額のお金を使って果たしてそれだけの効果と言いますか、それによって商業的なあるいは生活上のダメージをどうカバーしていただけるのかという問題が非常に大きいんですね、中心部では。橋を2つ架け替えるだけで、今の交通状態だったら大変な経済的な混乱が起こる可能性が強いんですね。

ただ、私らは長いこと住んでいる考えで言いますと、今、3点セットが非常に言われて特に出雲出身の某県議が、松江がやらないから進まないんだというような乱暴な論を言われたようですけど、そもそも斐伊川の分流というのは、昭和47年の洪水以前からの計画としてあったわけなんです。したがって、松江が大橋川を広げないから、うちが浸かるというのはそれは全然逆の論なんです。

したがって、松江だけについて考えるとですね、あれだけの非常に多額の投資をして橋を架け替えしたりして、経済的にダメージを受けるのなら、他の方法があるんじゃないかと、それは経済的にですけどね。

例えばわかりませんが、世界損害保険機構みたいなものに投資をしてですね損害をカバーする方法はないかどうか。長年にわたって松江の場合は、激流で洗われるということはないわけで、水かさが徐々に高まって浸水しています。もちろんそれによって被害は受けるんですけど、過去の経験から大体一週間以内ぐらいで水は引くわけです。

その損害をカバーすれば、あれだけの多額の投資をしなくても、済むんじゃないかという論もあるわけございまして、これもいろんな論があって国交省あたりは、非常に推進したがっておられるという言い方は、不適當な言い方もわかりませんが、初めに3点セットありきで遂行されると、非常に中心市街地の活性化に対する逆効果が避けられないと思っております。

作野会長

そうですね、なかなか苦しいところだと思いますが、先ほどのその点は十分検討して

いきたいと思います。

先ほどの住民の声を聞くということですけど、門脇さんおっしゃいますか、どうぞ。

門脇委員

先ほど市当局からアンケートということが出て参りましたが、アンケートも何回もおやりになっていると、実際市民サイドで言わせたら「またか」と、その集計的なものは、いったいどうなっているんですかという声が非常に多いんですね。

それともう1つ、ワークショップというものに対してですね、これは井ノ上さんとかと一緒にやってきた経過もございますけども、もう今松江の市民は市に対する、言い方をはっきり言いますと、不信感ですね。いったいこれからどういう具合に向かっていくのかという大きな課題があるのではないかと。そういう中で本当にワークショップを開く中で、これは喧々囂々として出て参ります。それを受けて立つ姿勢があるかどうかですね。

単にまた漠然とアンケートやりました。一般市民は結果も何も知らされないままということになったら全く意味がないと。

先にこの総合計画の中でされたアンケートは非常に幅広い1万人対象です。残念ながら回答率は58.6%ぐらいありますね。(作野会長：すごい高いですね)それでも低いと私は見ておりますけど、そういう中でアンケート項目がダブってなくて、中身をよく吟味された中でアンケートをやっていただきたいと。

それからワークショップですね。これも市の方が中心になって、1度開いてみられることもいいんじゃないかと思っております。

作野会長

ちょっと今、アンケートのことも出てきましたし、時間のこともございますが、ひとつ私のほうから見解を申し上げます。これは私、一委員として申し上げたいと思いますが、市はどうしているんだというのは、言えば簡単なんですけど、そうではなくて今後を目差すべきまちづくりというのは、もう市民自身が主体だから市民も責任を持つという、そういうものに持っていかないといけない。

そのためには、20万人も人がいれば受け皿が必要ですから、第2の市役所、役場とか農村地域ではそういう言い方をしていますが、そういうものが必要なと。ここのテーブルでは中心市街地を考えていく場ですから、中心市街地のそういったものを意識して議論を進めたいと思います。

もう1点、勝手ながら会長の立場ですから申し上げたいと思いますが、仲田さんの御質

問に対してはですね、私は2年前にこういう経験をしました。今のメンバーじゃないですが、中心市街地活性化対策課の人が年末に、私たちのところに課長以下3人ぐらい来られて、私に対して、先生すみませんとおっしゃったんですね。何がすみませんですかと言ったら、どうもいろいろまちづくり、中心市街地、トライしてきたけど、その住民のみなさんは、何もしないのが1番の幸せだと感じていらっしゃるようですと、こういう結論を持たれたんですね。

私はそれは、そういうふうに言われるのは鋭いし、住民のみなさんのそこに生き様みたいなのを感ずると、ただ恐らくこういう場では、そうもいかないだろうと。そのあたりを、住民の声を聞くというのは広く言えばそうなんです、やはりここは皆さま非常に有識者のお集まりですので、あるべき姿に導いていかれるということが非常に重要だと思いますので、ツールとしてあるいは場合によっては、先ほどワークショップとおっしゃいましたが、当事者の方、現場にお住まいの方、商売をやっている方にも御参画いただいて、意見をちょうだいしたいというふうに思います。

誠に勝手ながら、まだまだたくさん意見があると思いますが、それは今後いろいろな方法で、皆さま吸い上げさせていただきたいと思いますので、ちょっとだけ議事を進めさせてください。2番目なんですけども、ワーキンググループの設置及び今後の進め方についてです。これにつきましては、前回ワーキンググループを設置することを提案いたしましたが、位置付けが不明確だということで、再度設置の方向で提案させていただきたいと思います。まず、事務局から御紹介させていただきたいと思います。

事務局（春木副参事）

前回の協議会では、ワーキンググループの位置付けをスキーム図に表してから、設置するべきであるという御意見をいただきました。スキーム図に表しましたので、提案させていただきたいと思います。資料2と資料3を御覧になっていただきたいと思います。

資料2のほうでは、前回のスキームを表しております。対策協議会内部の組織図として位置付けております。

資料の3のほうでは、詳しい内容を明記させていただいております。ワーキンググループにつきましては、対策協議会での議事結果に基づき、より細かい検討及び作業をお願いしたいと思っています。作業内容につきましては、再び対策協議会のほうに諮ります。構成人数としましては、5人から6人をお願いしたいと考えているところでございます。

次に事務局の役割としまして、ワーキンググループの検討作業に参画します。対策協議

会、ワーキンググループの議事内容及び検討結果等の整理を行います。また、それに必要なデータなどの収集整理を行います。それから市の内部機関でございます、検討委員会及び幹事会との調整を図っていくことを、事務局の作業としておるところでございます。

以上、こういうスキーム図という格好で提案をさせていただきましたので、いかがでしょうか。

作野会長

どうもありがとうございました。前回位置付けが不明確だということで、規定にはないんですけども、こういう図に表す形で確固たる議論の場にしたいという御提案です。

ワーキンググループの設置につきまして、御意見ございますでしょうか。よろしいでしょうか。20名いらっしゃいますので、もちろん全員の方にくまなく意見をお伺いするのがベストなんですけども、物理的な制約もございますので、それではこのような形で進めさせていただきますと思います

なお、誠に勝手ながら、このワーキンググループの委員につきましては、会長に一任していただきたいと思いますが、いかがでしょうか。もし、大変失礼な言い方もかもしれませんが、人選に入らなくてどうしても参加されたいという方はですね、別に制限するものでございませぬので、そういう言い方は非常に変なんですけども、そういうふうに入れていくとですね、なんか全員入れたくなくなってしまいますんで、同じことになりますんで、5～6人というふうに一応させていただきました。よろしいでしょうか。御協力ありがとうございます。では、そのようにさせていただきますと思います。

続きまして、他の関連計画がありますが、その次の議題は4になりますので、4に入る前にどうでしょう、今後ワーキンググループあるいは、3回目4回目の協議会でこういうことを議論すべきだと、こういう資料を出してほしいとか、そういう御意見や御質問がありましたら最後にお伺いしたいと思いますが、いかがでしょうか。どうぞ、仲田さん。

仲田委員

さっきの私の質問と重複するというか、同じような理由なんですけれど、各商店街あるいは各エリアがある中で、松江しんじ湖温泉のほうでもいろんな計画が上がっていますし、殿町、京店もやっております。また駅前の方もやっていますし、そういったことからすると、現段階どういうふうな方向に進んでいるのかという、そのへんの大前提がないと、あるいは日赤病院なんかもありますから、公共施設等よりも商店街等の動きですね、そういったものの計画等があれば、議論もしやすいのかなというふうには考えますが、い

かがでしょう。

作野会長

前の協議会では、店主さんたちがたくさんおいでになったんですが、今回それを包括するような形で商工会議所さんから、おいでいただいているというような経緯がございますが、どうでしょうかね、きょう御紹介いただくというわけにはいきませんが、各商店街とかそういうチームの取り組みを説明、前はたくさんあったんですけど、いかがでしょうか。

事務局（松本課長）

まだ全体的にはまとめておりませんが、次回までにそのへんがわかる範囲の中で、資料を集めて参りますので、よろしく願いいたします。

作野会長

もし良かったら、参考人的な形で中村さん以外にも、そういう商店街組合の方にもおいでいただいて、5～10分ずつプレゼンをやっていただければ、10分ぐらいですかね、3カ所とか、しんじ湖温泉さんも含めてですね。よろしいでしょうかね、ちょっと御検討ください。

そういった形で他に御要望はございませんでしょうか。柴田さんから。

柴田副会長

居住者の高齢化率とか、平均年齢を示すような資料、そういうものがほしいです。それから先ほどからマンションのことが出たんですけども、そのマンションがたくさん建っておりますけれども、実際に住んでいる人が、少ないんじゃないかというような意見もあるんですね。いわゆる中心市街地のマンションは、老後に住むために買っているというような人が結構いて、出入りが少ないようだし夜になっても電気がつかない所が多い。

マンションが建ったら、住民が増えて商店とかが、活性化するんじゃないかという思惑があったんだけど、それほどのことはないとかってというような意見も聞くので、マンションの居住率というか、ちょっと難しいかもしれませんが、そういうものがわかるもの。

日赤が建て替えに入りますけども、もうある程度青写真みたいな図面とかができていると思うんですが、非常にこれから殿町の計画に大きく関わってくると思うので、日赤がどのように変化していくのかってということがちょっと知りたいです。

作野会長

では、それらは資料物ですので、御準備いただくようお願いいたします。必要があれば、事

前に御送付いただければと思います。門脇さん手が挙がってましたか、はい。

門脇委員

2点ございまして、1点はですね、現在松江市に空き家が一説では3,000軒、もう一説では5,000軒あるのではないかという話が出ております。実際、中心市街地は実態的にどうなっているのか、どの程度、空き家があるのか、そういう面が1つです。

ある程度、総合計画の中で、これはデータもございまして、2点目ですね、松江市のほうに商工会議所さんから非常に立派な「水色シンフォニー松江 21世紀の行動計画」と、素晴らしいものが答申されております。これに対して松江市当局でどう受け止めて、今後どうされていくのか、やはり長期ビジョンの中で、非常にある面では参考になるものなんですが、これはときたま前の新聞、平成4年のものをもっておりましたけど、具体的なものはどうなのかですね、そういう点、ぜひとも私は知りたいと思っていますので、できればその検討をお願いしたいと思います。

作野会長

空き家については、資料を準備できたらしてほしいと思います。

事務局（松本課長）

先ほどの中心市街地の空き家のことなんですけど、実際にそこに住んでおられるかというのは、なかなか難しいところがありまして、空き店舗なら商工会議所さんが、商店街に聞かれたりして、把握はされていると思うんですけど、実際問題として空き家は、今、どのようになっているのかというのは、例えば電気をとめられるとか、水道がとめられるとかということで、空き家になっている場合があるかもしれませんし、そうでない事情もあると思いますので、一応やってみますけど、どの程度の正確さがでてくるのかがちょっとわかりませんので、そのへんは御容赦お願いしたいなと思います。

作野会長

今、私江津市で全部やっているんですけど、えらい大変ですね。全部歩いて一軒一軒全部ピンポンならしていくんですが、住んでなさそうでも、住んでいるとかいろいろありますんで。

もう1つ水色シンフォニーの話は、商工会議所さんとも話していますが、できるだけこの議論の場にどんどん挙げていきたいと思っていますので、その私も中身は十分知りませんがその資料が、資料ばかりで恐縮なんです。あと鈴木さんと高橋さんから意見をいただいて、鈴木さんから。

鈴木委員

2点あるんですけども、1点は先ほども言いましたけど、過去の取り組みに対する評価と言うのは、これはそもそもマニュアルに求められているんで、ぜひ早めに形を出していただきたいと思います。詳しいかどうかは別として、取り合えずなんか形が必要なんだと思うので、それを出していただきたいというのが1点です。

2点目は、先ほどアンケートの話があったんですけど、2,000通全部郵送ということなんですけど、いくらかは松江市の職員の方が直接出向いて、市民の方とお話しをされたほうがよろしいんじゃないかなと思います。そういうことをするだけでも、松江市さんは本気になったかもしれないと、市民の方に思っただけだと思います。送れば返ってくるということではなくて、本当はできれば手分けしてできるだけ数多く、ヒアリングしていただくのがよいかと思います。そういう中から、市役所の人にとってわかる話というのが、いろいろ出てくるんじゃないかと、そんなふうに思います。

作野会長

アンケートのあり方中身については、ワーキンググループで詰めたいと思います。評価についてももちろんですね。ヒアリングについてもできるだけ準備して私たち委員自身もそういうヒアリングができるようなスタイルに持っていきたいと、宿題ではございませんが、そういう機会もあってもいいかなと思っております。

鈴木委員

評価の所はここで、みなさんでとやかく言う前に、まず市としてどういう計画があって、それについてどういうふうに思っているのかという一覧表が出せると思います。

作野会長

ちょっとお待ちくださいね。

鈴木委員

一応、うしろの資料にどういう施策に取り組んだのが出ていますが、それについての評価ですね。

作野会長

自己評価。

鈴木委員

自己評価。

作野会長

これは前の基本計画の中に「やったことリスト」は、はっきりしていますから、ぜひそれに対して見解を、これちょっと時間をかけていただいて結構だと思いますので、どうでしょうか。

事務局（松本課長）

実を言いますと、今回の中活法の改正で、指標を求めるということが初めて出てきました。以前までは、どういった効果があるのかという指標が、私どもの活性化基本計画にはないところがありまして、例えば歩行者数とかそれから商店街の数とか、そういう統計的にわかるものを使って、評価はできると思いますが、ただそれだけで絶対的な評価というふうにはならないかもしれないので、そのへんは御了承いただきたいなと思います。

作野会長

全体的な評価はできなくても、細かい事業単位とかですね、まとまり単位にすれば、一応、実感として行政側もいくらお金をかけたか、どういう効果があったとか、こういう点は効果が無かったというのは、定性的、定量的にできると思います。

毎熊先生のアドバイスにもありましたけど、今いろいろと社会科学とかも客観指標から主観指標も見込んで評価をするという大きい流れがございますので、ぜひそれは、まずは行政さんも出していただいて、そしてこの委員会としても、それに対して市民感覚としてはどうなんだというようなことから、議論が始まるのかなというふうに思っております。

宿題が多くて申し訳ありませんが、よろしく願いいたします。では、最後に高橋さん。

高橋一清委員

最後にお願ひがあります。先ほども泉さんが取り上げておられました大橋川工事のことを私も懸念しています。

今回いろんなプランを立てるにあたって、それを視野に入れてときょうありました関係で、やっぱり知っておきたいのです。今の土木関係の方たちの改修工事は、水の流れだけが眼中にあるわけですが、どういう経済効果と経済負担が伴う工事となっていくか、このあたりの考えが果たしてどこまでなされているか知りたいのです。観光に携わるものとしての感想では、やっぱり工事直前の観光客導入がピークで、長年の工事が終わったあとは、少子化の波をかぶる関係で、観光客実数は減るでしょうね。新しく作られた景観が認知され親しまれるには10年からの歳月と人の心への働きかけが必要です。これは気の遠くなるほどの難作業です。

観光立市からいえば、この工事はデメリットしか残らない。土木工事関係以外の経済効

果はどういうふうに計算されているかということ、やっぱり知っておきたいのです。

また土木工事についても、水量だけで言えば、確かに川幅を広げたら水量処理は可能かもしれませんが。川幅を広げるにあたっては大橋川拡幅のみならず、例えば、天神川を拡幅する検討はあったか、佐陀川と講武川と一緒にした改修案など検討はされていたか、そういう点も私は知ってみたいのです。

それからもう1つ市立病院の移転で、こんにち、町では大変なお悩みを抱えていることについて、短い形ながら痛烈な話をうかがいました。例えば、この移転の時に、移転したあと何をする予定であるか、明確な目的なり理由があったのか。確たる都市計画の上ではどうなっていたのでしょうか。まさか、ただ場当たりに移せばいいというような発想で、決められていたのではないでしょう。拙い例え話ですが、アメリカは日本と戦争する前に、勝ったあとにどのような国にしてやろうというところまで計画をして戦を始めている。

ものごとを計画するにはそれぐらいの用意は要るのではなからうかと思えます。だからこのたびの私たちの計画案も、いろんなものを移したり作ったりする時に、移したあとはどうなっていくかまでを、検討の中に入れる。あとは、このように活用する故に移したら両方ともによいことになるということを前提とすべきと思えます。

はじめの大橋川に関しては、参考資料としてどういうデータが出ているかプリント1枚でも、見せていただきたい。あとの市立病院に関しては、市はどのような対応をしていたか、計画案が残っていたら見せていただきたい。そういうことを考えに入れて、今回からは違うんだという心意気を見せなきゃいけないと思えます。

作野会長

どうもありがとうございました。大橋川については、いろいろと準備されていると思いますのでよろしくをお願いします。

市の対応うんぬんというのはですね、恐らく松江市さんに聞いてもなかなか回答が出ないと思いますが、私個人がいろいろな地域に住んでつくづく思うのは、松江市はそういう計画を作るのが、市とは行政という意味じゃないですね、市民気質としての。そういう計画を作るのがものすごい苦手ですね。全くと言っていいぐらいないと。市民病院については、中村さんたちと一緒にやらせていただきましたけど、移転する時から計画はないんです。

ただ逆に言うと、そうだからいろいろ石橋町のあたりとか江戸時代の面影が残っているというようなことも、非常に個人的な見解としては感じております。

そのへんはもし、そういう都市計画等の一連の流れがあるようでしたら、市の方に資料を御準備いただきたいと思います。

それでは、今いろいろ御注文がありました、これらを次回の協議会で出すと大変なことになりますので、できるだけ事前にできたものから、お送りいただいて委員の皆さまには、それぞれ大変恐縮ですが、目を通していただいて若干のお勉強をしていただければというふうに思っております。

最後なんです、その他で資料5がありますが、一応、説明だけお願いできますでしょうか。

事務局（春木副参事）

資料5を御覧になっていただきたいと思います。前回お送りしました基本計画の方針それから今回お送りしました申請マニュアル、これ2つの要点を抜粋しております。また、松江市という所には現在の活性化基本計画の状況と、改定時期の検討課題の主な所を抽出して明記しておりますので、御覧になっていただきたいと思います。

作野会長

ありがとうございました。このマニュアルとか方針、それから松江市の対応という今日評価も出ましたけれども、これ逆版ですよ。計画に対する位置付けだとも思いますので、きょうは議論する時間はございませんので、御意見があります場合には、別途メーリングリストや意見書等を出していただきたいと思います。

議事としては以上で終わらせていただきますが、よろしいでしょうか。最後にその他といたしまして、次回の日程を決めさせていただきたいと思います。3回目の予定はですね、スキーム図によりますと、11月の終わり12月の初めということが想定されておりますが、事前に日程調整をした結果、次の2回、2日のうちのいずれかの午前中をお願いできればと思っております。

1つは11月27日月曜日、もう1つの候補は11月30日木曜日いずれも午前を想定しております。恐縮なんです、御都合の悪い方をお聞かせいただきたいんですが、27日御都合の悪い方、挙手をいただけますでしょうか。4人の方ですね、ありがとうございました。30日御都合の悪い方、同じくらいですね。これはここで決めないといけないですか。御欠席の委員は高橋先生だけですか。

今の状況を御覧いただいて委員のみなさんにおかれましては大変恐縮なんです、27日の月曜日と30日の木曜日を午前をとりあえず空けていただいて、いずれかで原則として

はやらせていただきたいと思いますので、至急調整して事務局のほうから御連絡を
いただきたいと思います。

それでは議事としては以上で終わらせていただきますので、司会にお返ししたいと思います。

事務局（松本課長）

委員の皆さまには、大変長時間にわたりありがとうございました。作野先生には議事進行をしていただきまして、長時間にわたりありがとうございました。

最初に本来ならきょう部長が出席して、皆さんにお礼を申し上げるところなんですが、急用がどうも片付かなかったようで出席ができませんでした。大変お詫びを申し上げます。

今回は、先ほど言われました資料を送れるものから、皆さんに送らせていただいて臨みたいと思いますので、ひとつよろしく願いいたします。きょうは本当にありがとうございました。